

平成 26 年度

市民アンケート実施結果 報 告 書

平成 26 年 9 月

鹿角市総務部政策企画課

目 次

I 実施概要	1
II 回収状況	2
III 調査の総括	
1. 共働について	4
2. 地域コミュニティについて	4
3. 公共交通について	4
4. 市街地の整備について	5
5. 公園の環境について	5
6. 運動の実施状況について	5
7. 男女共同参画の状況について	6
8. 地域医療について	6
9. 行政情報などの取得方法について	6
10. 地域情報化について	7
11. コミュニティFMの利用について	7
12. 市税などの納付方法について	7
13. 市の施策について	8
IV 設問別集計結果	
1. 共働について	10
2. 地域コミュニティについて	12
3. 公共交通について	14
4. 市街地の整備について	18
5. 公園の環境について	20
6. 運動の実施状況について	22
7. 男女共同参画の状況について	24
8. 地域医療について	26
9. 行政情報などの取得方法について	30
10. 地域情報化について	31
11. コミュニティFMの利用について	37
12. 市税などの納付方法について	40
13. 市の施策について	43
14. 自由意見	49

I 実施概要

1 実施目的

本市では、平成23年度から32年度を計画期間とする「第6次鹿角市総合計画（以下「総合計画」と呼びます。）」において、市の将来のあるべき姿として、「笑顔がつながり活力を生むまち・鹿角」を将来都市像として定め、その実現を目指しています。この調査は、総合計画の推進を図るため、市が導入している行政評価制度の外部評価の一環として、総合計画を構成する各施策の進捗状況を成果指標として確認するほか、施策の効果とニーズ（需要）を調査・把握するとともに、市民の意識や意見等を集約し、今後の施策推進に活用することを目的としています。

2 設問構成

設問	設問の趣旨	担当課
1. あなた自身について	居住地区、性別、年代の確認	—
2. 共働について	共働の共感度の把握	市民共働課
3. 地域コミュニティについて	社会活動、地域活動への参加頻度の把握	市民共働課
4. 公共交通について	バス等に不便を感じる方の割合と不便の要因の把握	市民共働課
5. 市街地の整備について	中心市街地の生活環境に対する満足度と不満要因の把握	都市整備課
6. 公園の環境について	公園整備状況に対する満足度と不満要因の把握	都市整備課
7. 運動の実施状況について	運動や生活活動の頻度とその時間の把握	スポーツ振興課
8. 男女共同参画の状況について	ワーク・ライフ・バランスの認知度、地域内の共同参画状況の把握	市民共働課
9. 地域医療について	かかりつけ医を持っている割合	健康推進課
10. 行政情報などの取得について	市からの配布物など行政情報取得方法の把握	政策企画課
11. 地域情報化について	インターネット利用状況の把握	総務課
12. コミュニティFMの利用について	地域コミュニティFMの利用率やサイマル放送認知率の把握	政策企画課
13. 市税などの納付方法について	市税や公共料金の納付方法改善に向けたニーズの把握	税務課
14. 市の政策について	①施策の効果が市民にどのように受け止められているかを調査し、施策の評価に活かす ②施策に対する市民ニーズを調査し、施策の優先度等の検討に活かす（5つのプロジェクト以外に特に市民ニーズが高いものを探る）	政策企画課
15. 自由記入	—	—

3 実施期間

平成26年5月30日（金）～6月16日（月）まで

4 実施対象

平成26年5月30日時点で住民基本台帳に登録されている方のうち、無作為によって抽出した満年齢18歳以上74歳以下の市民700人。

※上記700人の抽出にあたっては、性別、年齢及び地域条件を考慮し、人口構成の縮図となるよう均衡を図ったほか、平成23年度から25年度までの市民アンケート、平成23年度「緑の分権改革」調査事業及び平成24年度鹿角市地域福祉計画策定に関するアンケート調査対象者を除いています。

Ⅱ 回収状況

1 回収率

60.1% (421 人／700 人)

2 回答者の属性

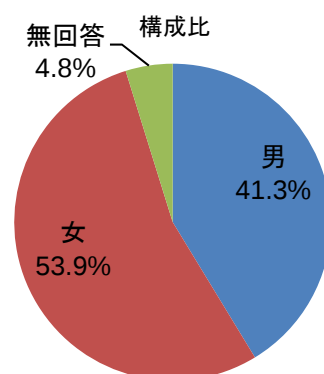
市民アンケートの属性別の対象者数、回答者数及び回収率は以下のとおりです。構成比（※1）は、その区分の対象者（回答者）が全対象者（回答者）のうち何%を占めているかを表しています。回収率（※2）は、その区分の対象者数のうち何%が回答を寄せたかを表しています。

※1 構成比 = その区分に属する対象者数（回答者数） ÷ 全対象者数（全回答者数）

※2 回収率 = その区分に属する回答者数 ÷ その区分に属する対象者数

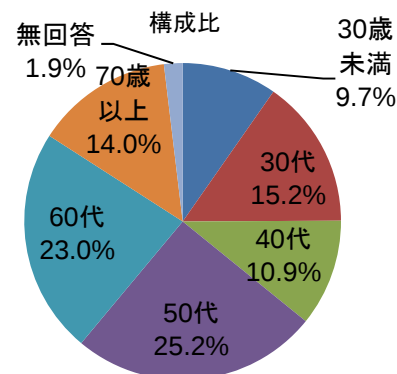
（1）男女別

	対象者数		回答者数		回収率
	人数	構成比	人数	構成比	
男	353	50.4%	174	41.3%	49.3%
女	347	49.6%	227	53.9%	65.4%
無回答			20	4.8%	
計	700	100.0%	421	100.0%	60.1%



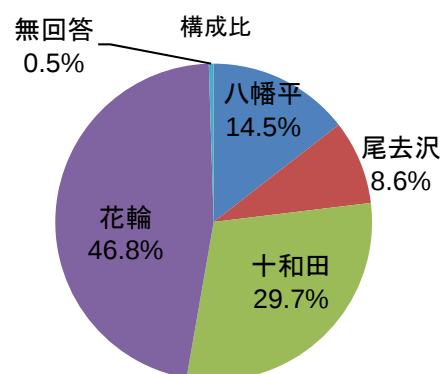
（2）年代別

	対象者数		回答者数		回収率
	人数	構成比	人数	構成比	
30歳未満	89	12.7%	41	9.7%	46.1%
30代	117	16.7%	64	15.2%	54.7%
40代	104	14.9%	46	10.9%	44.2%
50代	162	23.1%	106	25.2%	65.4%
60代	156	22.3%	97	23.0%	62.2%
70歳以上	72	10.3%	59	14.0%	81.9%
無回答			8	1.9%	
計	700	100.0%	421	100.0%	60.1%



（3）地区別

	対象者数		回答者数		回収率
	人数	構成比	人数	構成比	
八幡平	87	12.4%	61	14.5%	70.1%
尾去沢	60	8.6%	36	8.6%	60.0%
十和田	230	32.9%	125	29.7%	54.3%
花輪	323	46.1%	197	46.8%	61.0%
無回答			2	0.5%	
計	700	100.0%	421	100.0%	60.1%



※各設問における項目選択の割合（%）は、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

Ⅲ 調査の総括

[Redacted text block]

Ⅲ 調査の総括

1. 共動について

共動共感度	79.1%	⇒詳細 P10
--------------	--------------	---------

「共動」については、地域づくり協議会等による市民センターの運営や共動パートナー制度の運用、自治会活動への支援、また、各種事業の企画運営のために市民ワークショップを開催し、市民の意見を十分反映する仕組みづくりなどを進めてきています。

このような様々な取り組みを進めてきた結果、「共動」が市民の間に十分浸透していると考えられ、今後も、引き続き「共動」の取り組みの充実を進めていきます。

2. 地域コミュニティについて

社会活動・地域活動の参加割合	68.2%	⇒詳細 P12
-----------------------	--------------	---------

昨年1年間に社会活動や地域活動へ参加した割合は、68.2%と基準値である46.8%（秋田県県民意識調査）を大きく上回り、年々上昇していることから、地域コミュニティへの参加は進んでいると思われます。

今後も地域コミュニティの維持や活性化を図るためには、若年層の参加が不可欠なことから、参加率向上につながる啓発活動の取り組みについて、積極的に行う必要があります。

3. 公共交通について

公共交通に不便を感じる市民の割合	27.1%	⇒詳細 P15
-------------------------	--------------	---------

公共交通機関の移動に「不便を感じる」と回答した割合は27.1%となっており、目標値である19.5%までは7.6ポイント届かない状況です。

普段の移動に、約9割の人が自家用車を利用しながら、かつ多くの人が公共交通に「不便を感じる」と回答している理由として、中・高生の家族の学校への送迎が必要となっている実態や、便利であれば公共交通も利用したいという潜在ニーズが表れていると考えられます。

本数増や低運賃、新ルートによる運行など要望は多様であることから、路線バスに限定しない形態や乗継の利便性向上など、それぞれの需要に最適な交通システムを構築しながら、公共交通の満足度を高められるような施策を講じていく必要があります。

4. 市街地の整備について

中心市街地の環境に満足している市民の割合

57.2%

⇒詳細 P18

市では、まちづくりビジョンに基づき、ＪＲ鹿角花輪駅と新町・大町等の商店街周辺を核とする中心市街地の再生のための整備を進めており、花輪駅西住宅の建設や文化の杜交流館「コモッセ」の建設、周辺アクセス道の整備のほか、駅前広場整備の検討を進めるなど、まちなかのにぎわい創出と活性化を目指しています。

アンケートでは、花輪市街地について 57.2%が概ね満足と回答していますが、各地域のバランスに配慮しつつ、居住環境の向上に寄与する道路網の整備やアクセスの改善、にぎわい創出による地域経済の活性化に取り組み、安心して住み続けられる住民ニーズにあった魅力ある街づくりが必要と考えます。

5. 公園の環境について

公園の環境に満足している市民の割合

64.4%

⇒詳細 P20

平成 22 年度に策定した公園施設長寿命化計画に基づき、老朽化した遊具等の更新を計画的に進めるとともに、昨年は総合運動公園内に大型複合遊具を整備し、家族で楽しめる公園としての機能拡充を図っています。

公園内の管理については、地元自治会や老人クラブへ委託しており、概ね管理は行き届いていると考えておりますが、定期的な点検により状況把握を行い、適正な管理に努めます。

今後も誰もが利用しやすい公園となるよう、各公園の景観や機能を生かした魅力ある公園づくりを進めていきます。

6. 運動の実施状況について

週 1 回以上の頻度で運動する市民の割合

56.3%

⇒詳細 P22

運動やスポーツに取り組もうとする意識は、余暇の過ごし方の多様化からか、なかなか進まない状況にありましたが、日常的なスポーツ活動を促すためのきっかけづくりとして、生活活動動作が健康づくりと密接な係わりがある、との意識を醸成することにより、昨年度から実施率が 50%を超え、今年は 56.3%となりました。

40 歳代の働き盛りの世代の実施率が、30%台と低い状況にありますが、引き続き日常生活における生活活動動作も、運動を意識して行うことで健康づくりにつながることを継続的に広報し、軽運動の習慣化につなげることで、スポーツへのきっかけづくりを充実させる必要があります。

7. 男女共同参画の状況について

ワーク・ライフ・バランス認知度

23.5%

⇒詳細 P24

「ワーク・ライフ・バランス」の認知度については、23.5%となっており、昨年度とほぼ同じ状況です。依然としてこの言葉を知らない割合が7割を超えているため、認知度を高めていく必要があります。

また、男女の地位の平等感については、66.5%が「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」と答えており、依然として男性の方が優遇されていると感じている人が多いのが現状です。

このため、あらゆる機会を通じて、性別に関わりなく個性や能力を発揮できる社会をつくっていきけるよう、啓発や学習の機会の提供に取り組んで行く必要があります。

8. 地域医療について

かかりつけ医を持っている市民の割合

68.9%

⇒詳細 P27

地域医療の充実は、市民の「安心」「安全」に直接結びつく最も重要な課題であり、そのための医療体制の構築については、医療機関だけに頼るのではなく、市の医師確保対策とあわせ、「かかりつけ医」を持つことによる一次医療体制の確立など、市民と行政が一体となって取り組んでいかなければなりません。

過去一年間における医療機関の利用状況では、昨年度と同様に約8割の利用結果となっており、あらためて多くの方が医療機関を利用していることを確認しています。

また、そのうえで昨年に引き続き、地域で限られた医療機関をいかに有効に活用して適正な受診をしているかの指標となる、かかりつけ医の利用については前年比 8.4 ポイントの増となり、かかりつけ医への意識づけが、より一層浸透してきているものと考えられます。

9. 行政情報などの取得について

⇒詳細 P30

普段の生活において情報取得に欠かせないと感じている取得手段を複数回答でうかがったところ、全回答数の 63.8%の方が広報誌や広報に同封したチラシなどと答え、紙面による情報の取得が、大きな割合を占める結果となっています。

市が発信している行政情報や防災情報などのお知らせは、広報誌など世帯毎に配布される従来の紙媒体に加え、ホームページやスマートフォン、携帯電話、テレビ、ラジオの電波網を利用したリアルタイム情報の発信など、ICT技術の進歩に伴い、今後も個人で取得できる情報や、取得ツールの多様化が進むことで、配布物においても、エコにつながるペーパーレスの取り組みが進んでいくものと予想されますが、お知らせする情報の内容や性格により、適切な媒体で情報を伝達する必要があります。

10. 地域情報化について

インターネットを利用している市民の割合

51.5%

⇒詳細 P31

インターネット人口普及率（インターネットを利用していると回答した割合）は51.5%となりました。この普及率について年代を区切って見ると、30歳未満は約90%を超えるほど普及していますが、年代が上がるにつれて利用者が減少し、昨年度と同様の傾向が見られ、若年層と高齢者に大きな違いがあることが表れています。

若い年代では、利用機器にスマートフォンが定着しており、加えて近年のSNS（ソーシャルネットワークキングサービス）の普及拡大は、手軽で場所を選ばないコミュニケーションを容易にしているため、将来的にもインターネット普及率が高まっていくことが推測されます。

しかし一方では、高齢者を中心としたインターネットを利用していない方の多くは、利用の必要性がないと考えている状況もうかがわれます。

インターネットの利用目的としては情報収集が最も多いことから、市としては、引き続き情報処理システムの構築と正確で迅速な情報発信に努めるとともに、インターネットを利用しやすい環境づくりと情報伝達媒体の多様性の確保を図ります。

11. 地域コミュニティFMの利用について

⇒詳細 P37

昨年10月に開局した「鹿角きりたんぼFM」は地域の身近な情報を毎日放送しており、行政情報の発信も行っています。

聴取頻度をうかがったところ、月に1回以上聴いている方の割合は59.4%となっており、地域に根差したFMラジオ局として順調に浸透してきていると考えられます。

また、聴いている場所については、50代以下は「車内」との回答が、60代以上は「自宅」との回答が多く、生活スタイルに応じて聴取場所が分かれた結果が表れました。

今後、周波数や番組内容、インターネット回線を利用して聴くサイマル放送の周知が進むことで、さらに聴取率が向上していくことが期待されます。

12. 市税や公共料金などの納付について

⇒詳細 P40

市税や公共料金などの納付環境改善のため、現在の納付方法についてご意見をうかがったところ、67.0%の方は不便を感じていないという回答結果となりました。

一方、不便を感じている方の66.0%が、その理由として納付したいときに窓口が開いていないといった、時間帯の工夫を望む意見が多くなっています。

今後の改善策として、不便を感じる、感じないに係らずコンビニエンスストアでの納付を望む意見が62.7%と多いことから、時間帯に制限されない納付環境に高いニーズがあることが分かりました。

開庁時間の延長や休日利用可能な市民サービス窓口が定着し、サービス向上に一定の効果があったものと考えていますが、納付環境の向上に向けて、さらなる検討を進めます。

13. 市の施策について

- ・市が進めている取り組みの中で、効果が得られていると感じるもの
- ・市が進めている取り組みの中で、もっと力を入れて欲しいと感じるもの

⇒詳細 P43

効果が得られていると感じられるものとして高い評価を得た施策は、順に「子育て支援の充実」「高齢者福祉の充実」「健康づくりの充実」「スポーツ環境の充実」「観光の振興」となり、市がこれまで取り組みを強化してきた施策が評価されています。

また、もっと力を入れて欲しいと感じる施策については、順に「雇用環境の充実」「地域医療体制の充実」「商店街の活性化」「高齢者福祉の充実」「子育て支援の充実」という結果となり、雇用情勢と医療環境の厳しい状況が表れています。「商店街の活性化」については文化の杜交流館の建設による波及効果への期待、「高齢者福祉の充実」「子育て支援の充実」については取り組みが評価されている一方で、さらなるサービス拡充を求める声のあらわれと受け止めています。

【 効果が得られていると感じるもの 】

	H 2 5	H 2 4	H 2 3
第 1 位	子育て支援の充実	高齢者福祉の充実	高齢者福祉の充実
第 2 位	高齢者福祉の充実	子育て支援の充実	子育て支援の充実
第 3 位	健康づくりの充実	健康づくりの充実	健康づくりの推進
第 4 位	スポーツ環境の充実	観光の振興	スポーツ環境の充実
第 5 位	観光の振興	スポーツ環境の充実 農業生産の振興	観光の振興

【 もっと力を入れて欲しいと感じるもの 】

	H 2 5	H 2 4	H 2 3
第 1 位	雇用環境の充実	雇用環境の充実	雇用環境の充実
第 2 位	地域医療体制の充実	地域医療体制の充実	地域医療体制の充実
第 3 位	商店街の活性化	観光の振興	商店街の活性化
第 4 位	高齢者福祉の充実	子育て支援の充実	高齢者福祉の充実
第 5 位	子育て支援の充実	学校教育の充実	観光の振興

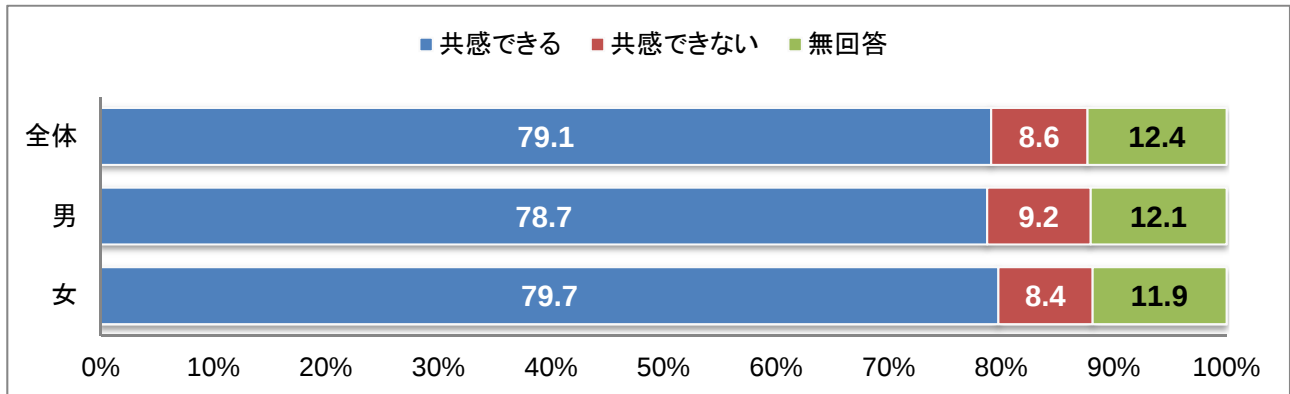
IV 設問別集計結果

1 共動について

設問② 市が提唱している共動について、あなたは共感できますか。

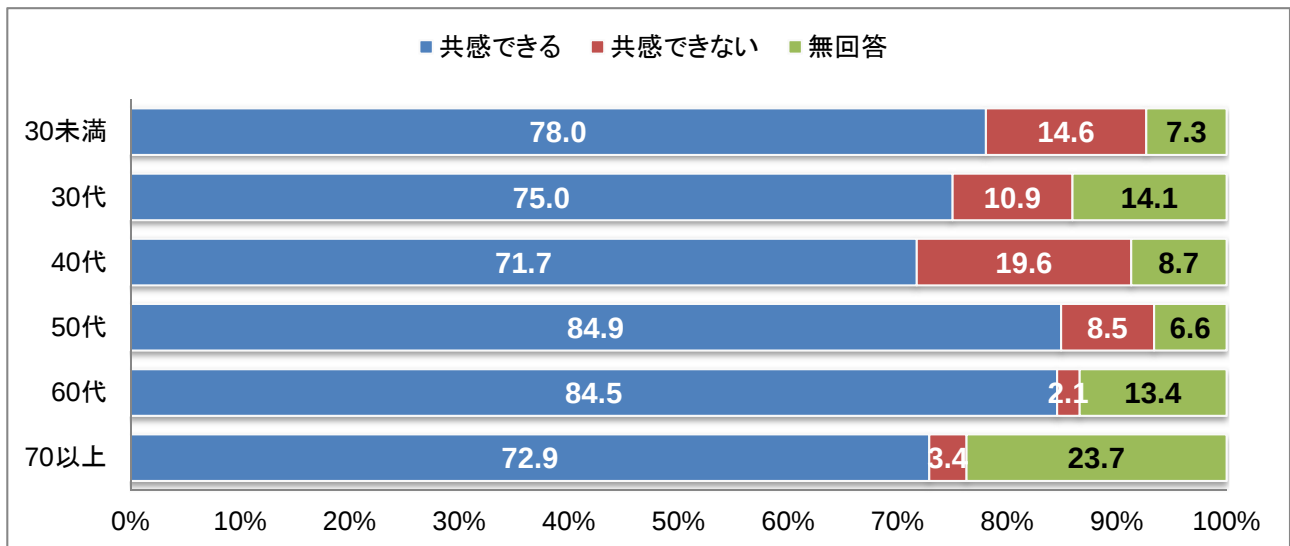
①全体／男女別

〔単位：％〕



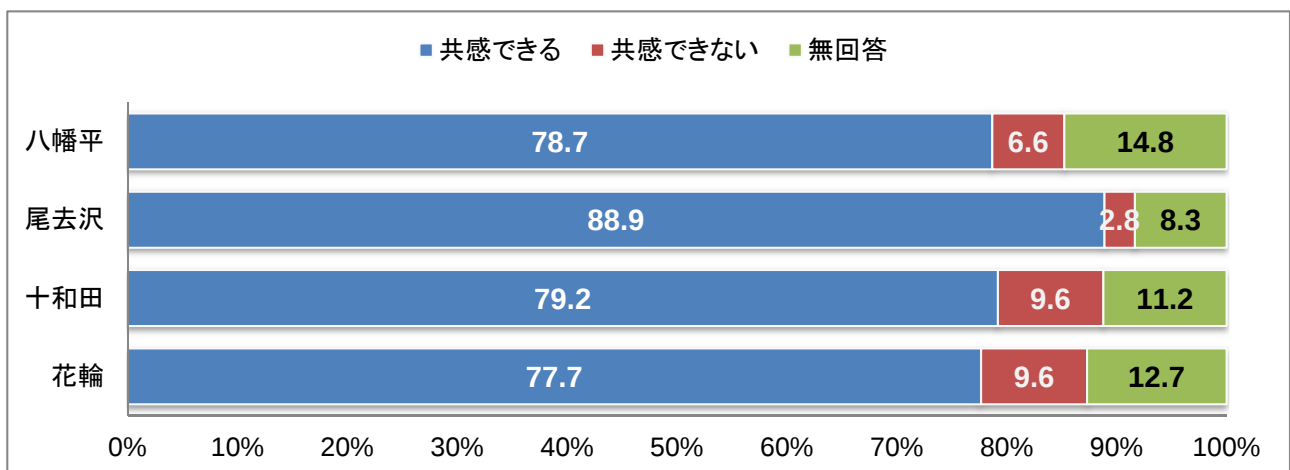
②年代別

〔単位：％〕



③地区別

〔単位：％〕



④分析結果

共動に共感できるかどうかについては、79.1%が共感できるとしており、2年前の69.2%、昨年の77.7%と年々上昇していることから、多くの市民から着実に理解されていることが分かります。

共感できないとした割合は8.6%と、昨年度の11.1%から若干減少していますが、これまで共感できないと答えた割合が高かった30歳未満の若年層の割合が、昨年度の21.1%から6.5ポイント改善され、14.6%と減少する結果となっており、引き続き全ての世代に受け入れられるような取り組みが求められます。

〔参考〕第6次総合計画成果指標と実績値

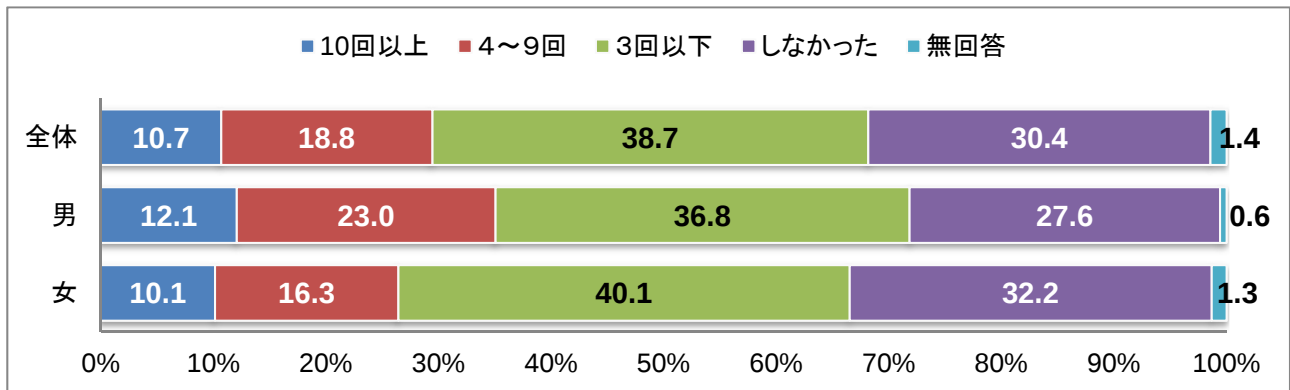
成果指標	基準値	実績値 (H25)	目標値 (H27)
共動共感度	66.7%	79.1%	70.0%

2 地域コミュニティについて

問③ あなたは、昨年1年間に社会活動や地域活動（ボランティア活動、自治会活動など）にどの程度参加しましたか。

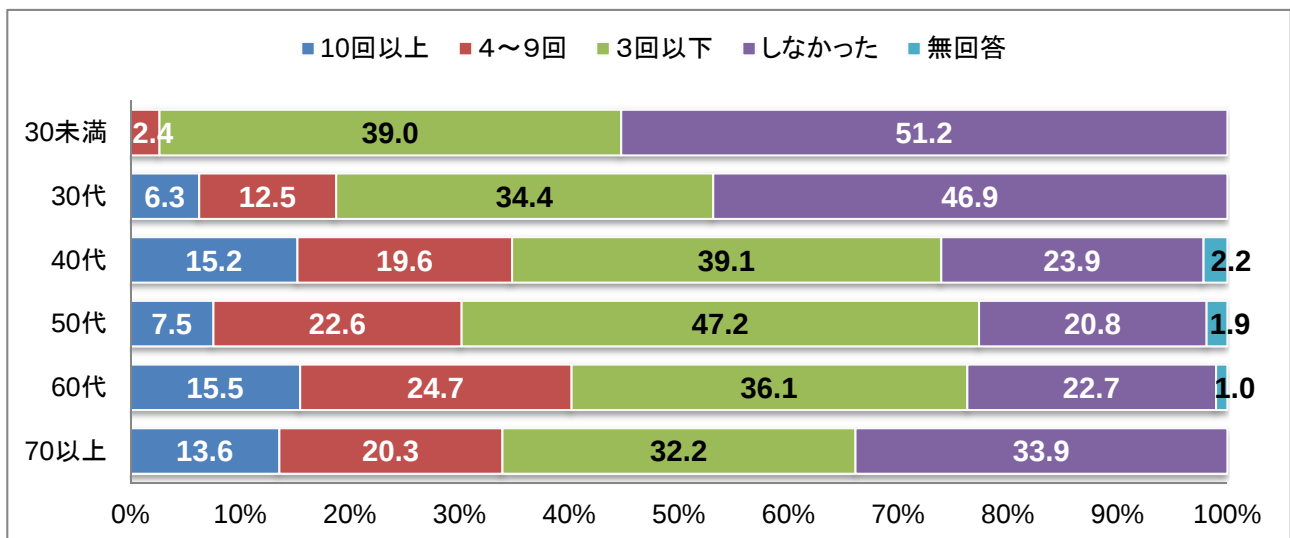
①全体／男女別

〔単位：％〕



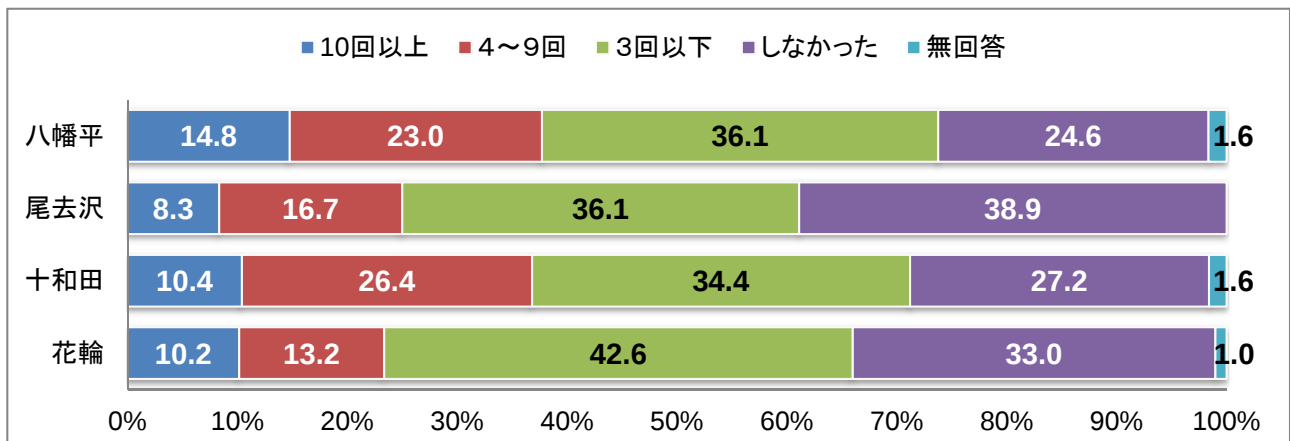
②年代別

〔単位：％〕



③地区別

〔単位：％〕



④分析結果

個人が昨年 1 年間に社会活動や地域活動へ参加した割合は、68.2%となり、昨年度の 64.0%から 4.2 ポイント上昇しています。

参加しなかった割合を男女別でみると、男性の 27.6%に対し、女性が 32.2%と前年同様に女性の割合が高くなっている傾向が見られます。また、年代別でみると、30 歳未満と 30 代がそれぞれ 51.2%、46.9%と高い割合を示しているものの、30 歳未満の割合は昨年度の 73.7%から 22.5 ポイント改善しており、これからの地域コミュニティ活性化の鍵となる若年層の参加も増加している結果となっています。

地区別でみると、従来から地域コミュニティ活動が活発な八幡平地区に続き、十和田地区の参加率も 7 割を超えており、活動が盛んになっていることがうかがえます。

〔参考〕第 6 次総合計画成果指標と実績値

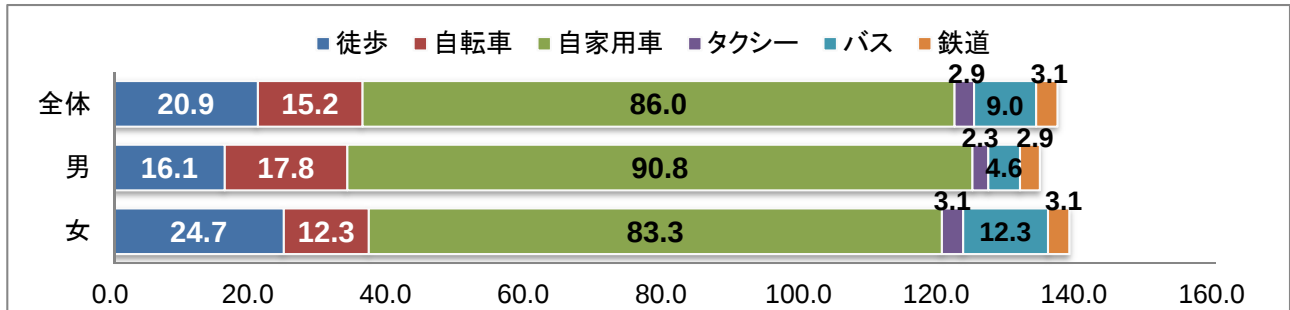
成果指標	基準値	実績値 (H25)	目標値 (H27)
社会活動や地域活動(ボランティア活動・自治会活動など)に参加した市民の割合	46.8%	68.2%	65.0%

3 公共交通について

設問④-1 普段、移動手段に何を利用していますか（複数回答可）。

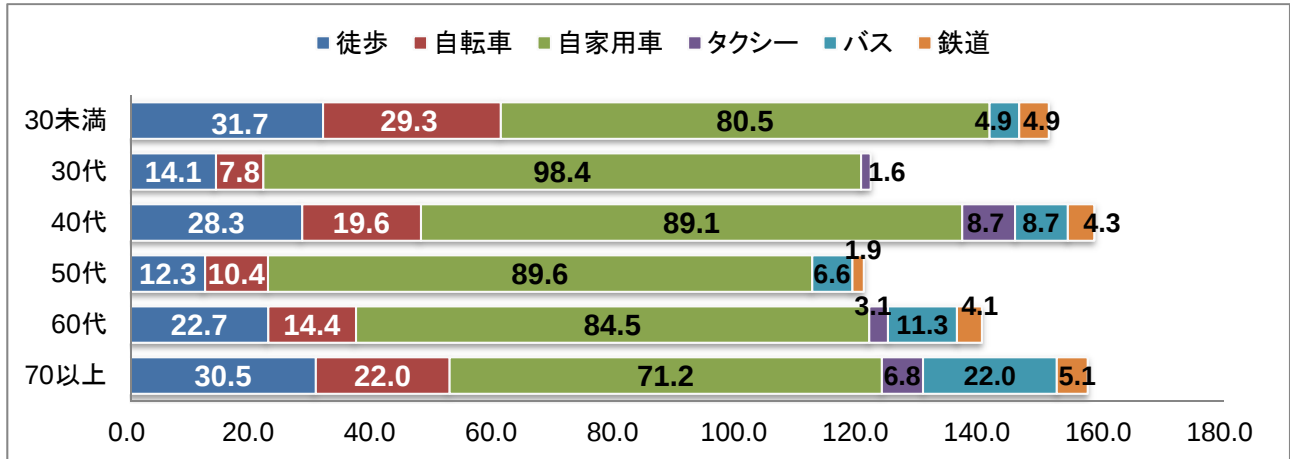
①全体／男女別

[単位：％]



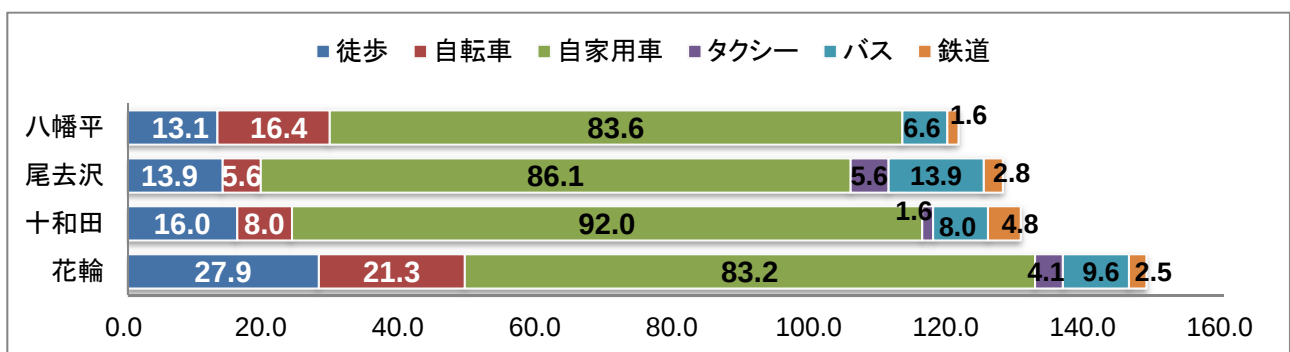
②年代別

[単位：％]



③地区別

[単位：％]



④分析結果

普段の移動手段としては、自家用車を挙げた人の割合が86.0%と高く、70歳以上でも71.2%の人が自家用車を使用するとしています。

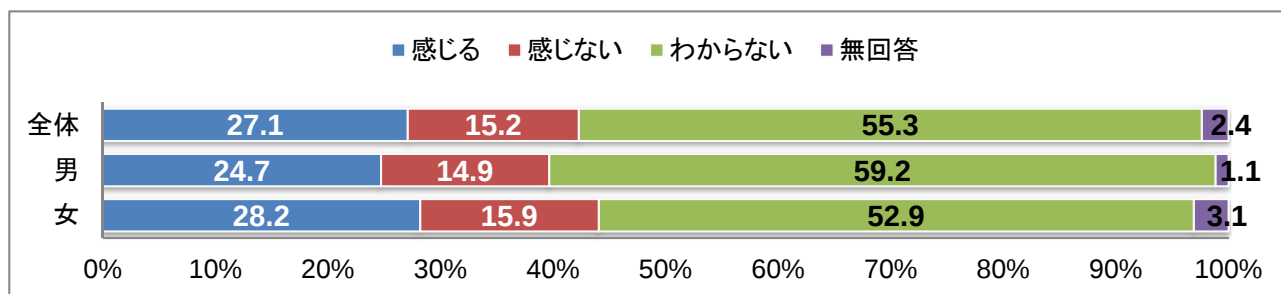
バスを利用すると答えた割合は9.0%にとどまっており、70歳以上では22.0%の人が利用するとしている一方、40代以下の若い世代ではほとんど利用していない状況となっています。

地区別にみると、尾去沢地区でバスを利用すると答えた割合が13.9%と比較的高く、八幡平や十和田地区に比べ停留所や目的地までの距離が短く、利用しやすい環境であると考えられます。

設問④-2 あなたは、普段の生活の中で、バスや鉄道などの公共交通機関による移動に不便を感じていますか。

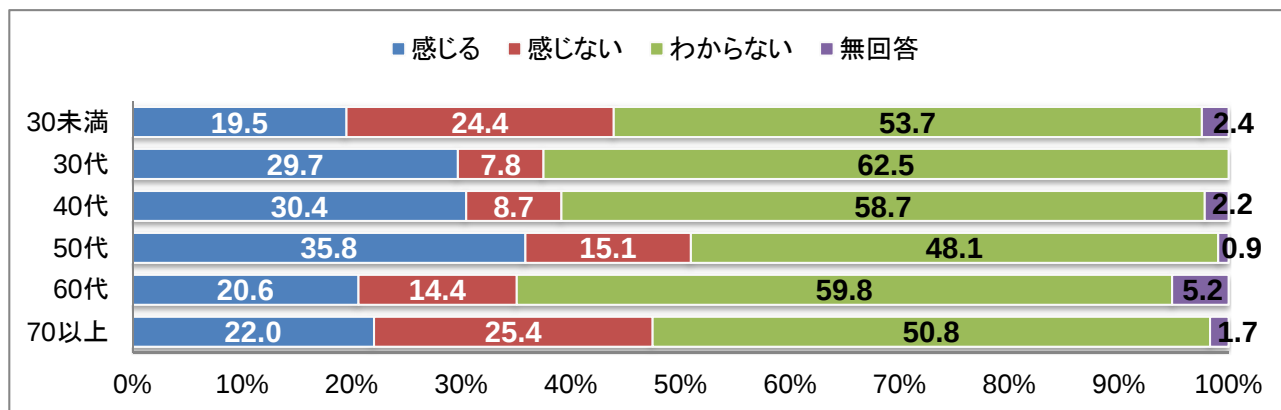
①全体／男女別

〔単位：％〕



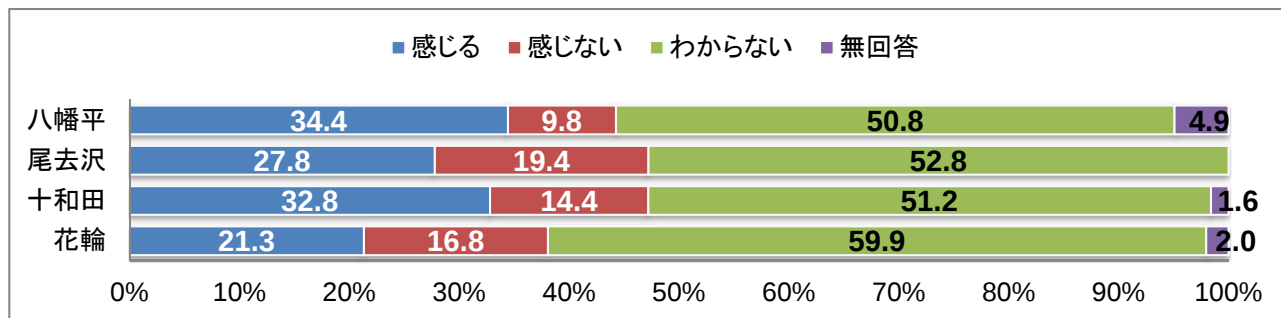
②年代別

〔単位：％〕



③地区別

〔単位：％〕



④分析結果

公共交通機関の移動に「不便を感じる」割合は、前年度より 2.2 ポイント増加の 27.1%となっています。

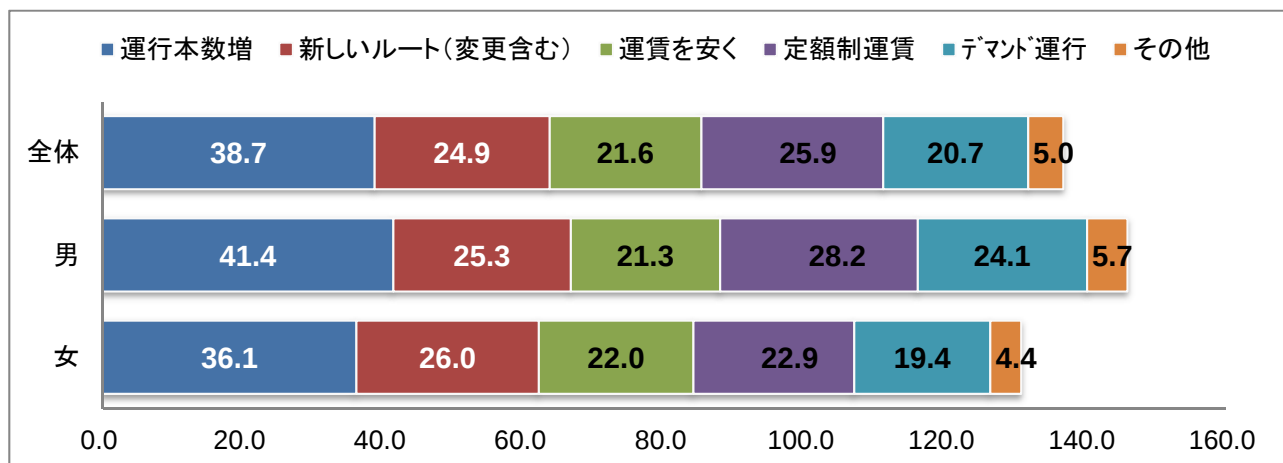
その一方で、あまり利用しないので「わからない」と回答した割合が 5 割を超えており、公共交通を利用しない人からは関心が向けられていないことがうかがわれます。

地区別にみると、「不便を感じる」割合が八幡平で 34.4%と高く、次いで十和田地区が 32.8%という結果が表れており、不便を感じる理由として概ね 7 割の方が「運行本数が少ない」「時間帯が合わない」と回答しているほか、「バス停が遠い」「乗り継ぎがしづらい」などの意見が挙げられています。

設問④-3 公共交通を利用しやすくするため、改善すべきことはどれですか？（複数回答可）

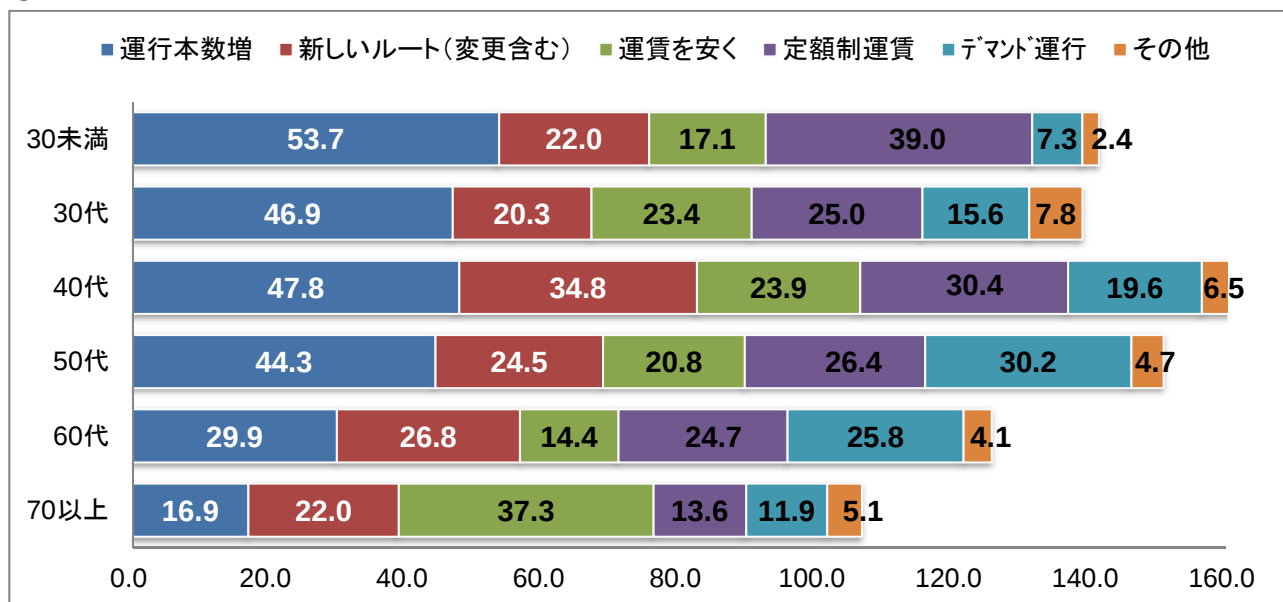
①全体／男女別

〔単位：％〕



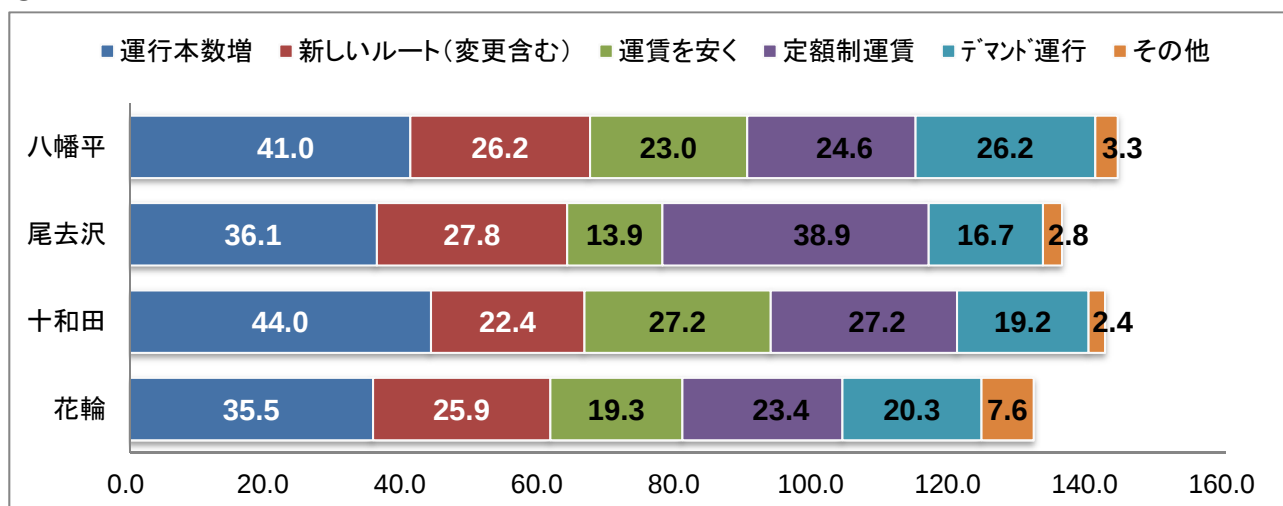
②年代別

〔単位：％〕



③地区別

〔単位：％〕



④分析結果

利用しやすくするために改善してほしいものとしては、運行本数増が 38.7%、次いで定額制（距離に関係ない）料金体系の導入が 25.9%、新ルートが 24.9%と続いています。

年代別にみると、特に 50 代以下の現役世代では、時間的制約に影響がなければ利用したいといった運行本数増への意見が多くありますが、この世代の多くは自家用車での移動が可能であり、どの程度利用増につながるかは、詳しい検証が必要です。

バスを利用する割合が比較的高い 70 歳以上では、運賃を安くすべきとの回答が最も多く、この年代にとって、バスが生活に欠かせない交通手段となっていることをあらためて重視する必要があります。

地区別にみると、十和田地区、八幡平地区で特に本数増への要望が多いほか、目的地までの距離が遠いため、低料金に対する回答割合が高くなっています。

新たに設けたデマンド運行への要望については、八幡平地区で導入を望む意見が多いことも結果に表れています。

〔参考〕第 6 次総合計画成果指標と実績値

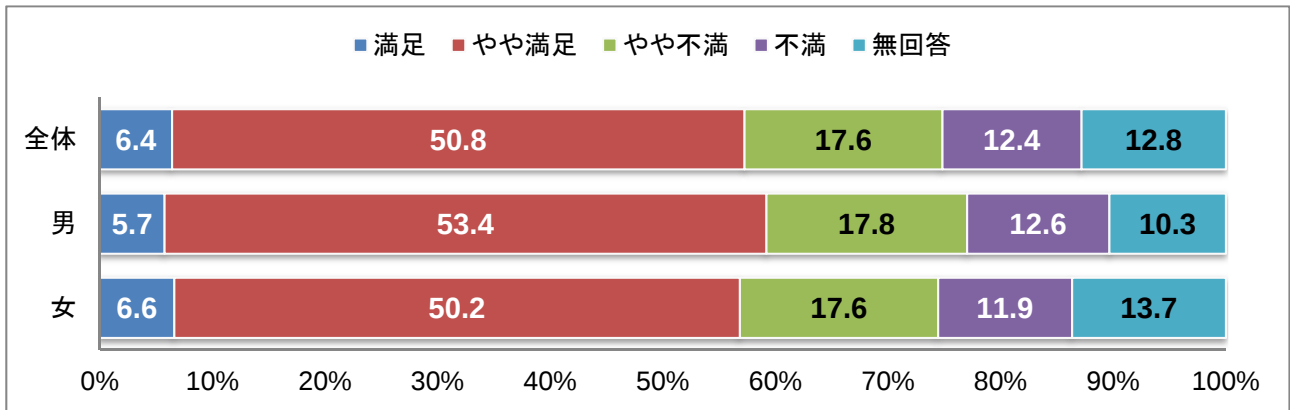
成果指標	基準値	実績値 (H25)	目標値 (H27)
公共交通に不便を感じる市民の割合	24.6%	27.1%	19.5%

4 市街地の整備について

設問⑤ あなたは、花輪市街地の生活環境（住みごごちだけでなく、交通の便や公共施設の配置など中心地としてのまちの便利さ）に満足していますか。

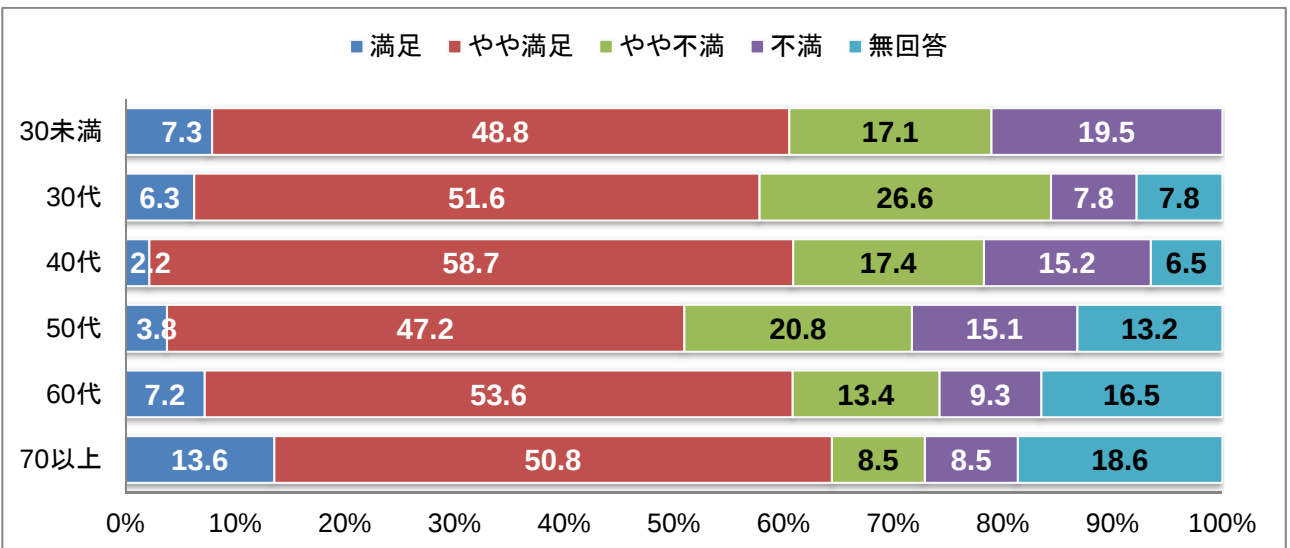
①全体／男女別

〔単位：％〕



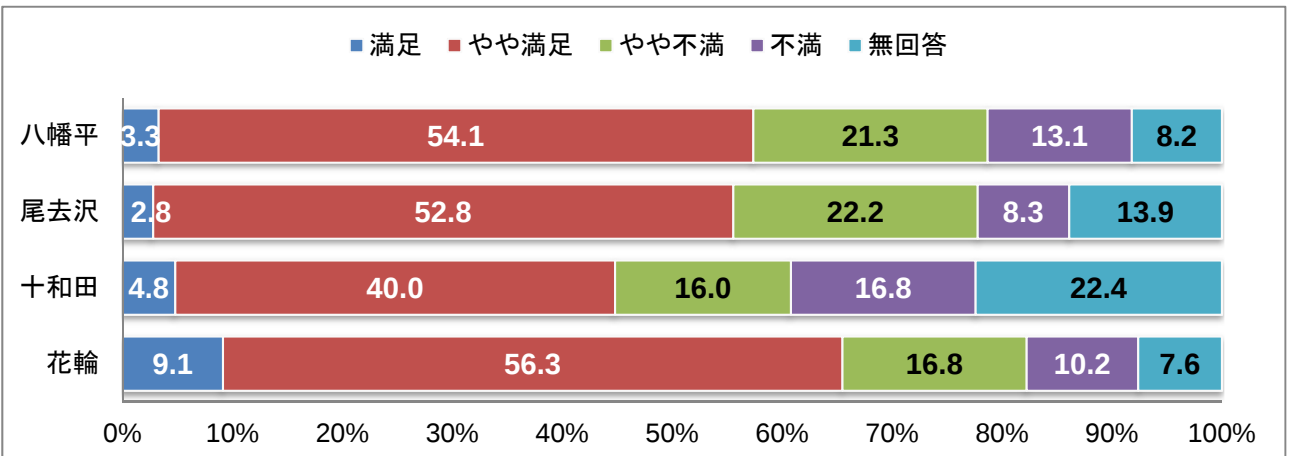
②年代別

〔単位：％〕



③地区別

〔単位：％〕



④分析結果

花輪市街地の整備について「満足」、「やや満足」とする満足度の割合は 57.2%と昨年度よりも 6.8 ポイント上昇しました。

一方で、公共施設が分散しており、1 か所で用事が足せない不便さや駐車場が少ないことを挙げる声、また大型店舗や娯楽施設を望む声が多く、花輪市街地に対する市民の期待が実態にあわないとする意見が出されており、「不満」、「やや不満」が 30.0%になっています。

不満の理由を年代別でみると、60 代以上では公共施設の配置への不満が多く、50 代以下では商店街の魅力や活気の向上を望む意見のほか、駐車場の整備への意見が多くあります。

地区別にみると、十和田地区の満足度が低くなっていますが、毛馬内に一定の商業圏域が形成されているため、無回答の割合が多かったことから、花輪市街地の利用が少ない傾向にあるものと考えます。

〔参考〕第 6 次総合計画成果指標と実績値

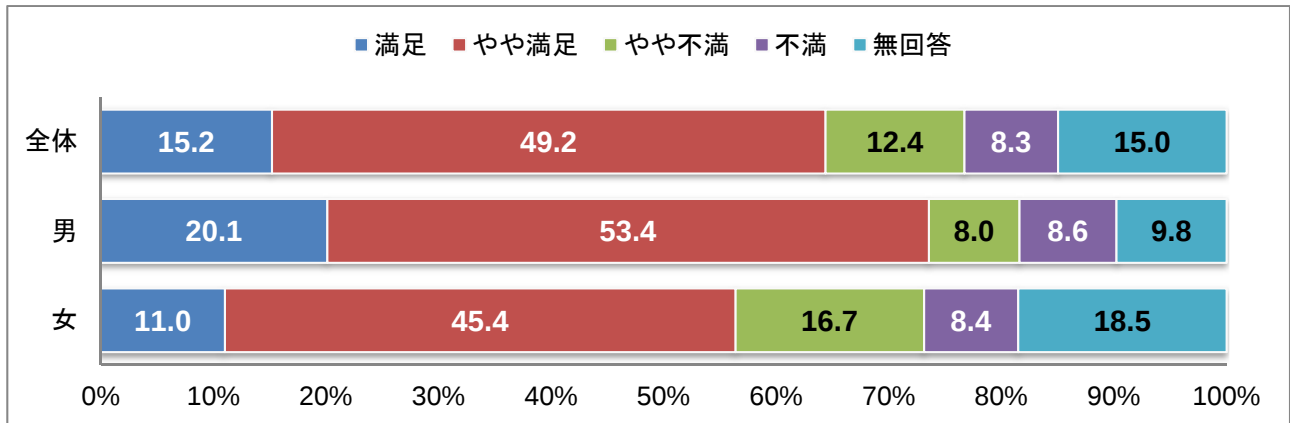
成果指標	基準値	実績値 (H25)	目標値 (H27)
中心市街地の環境に満足している 市民の割合	20.2%	57.2%	55.0%

5 公園の環境について

設問⑥ あなたは、市内の公園の整備状況に満足していますか。

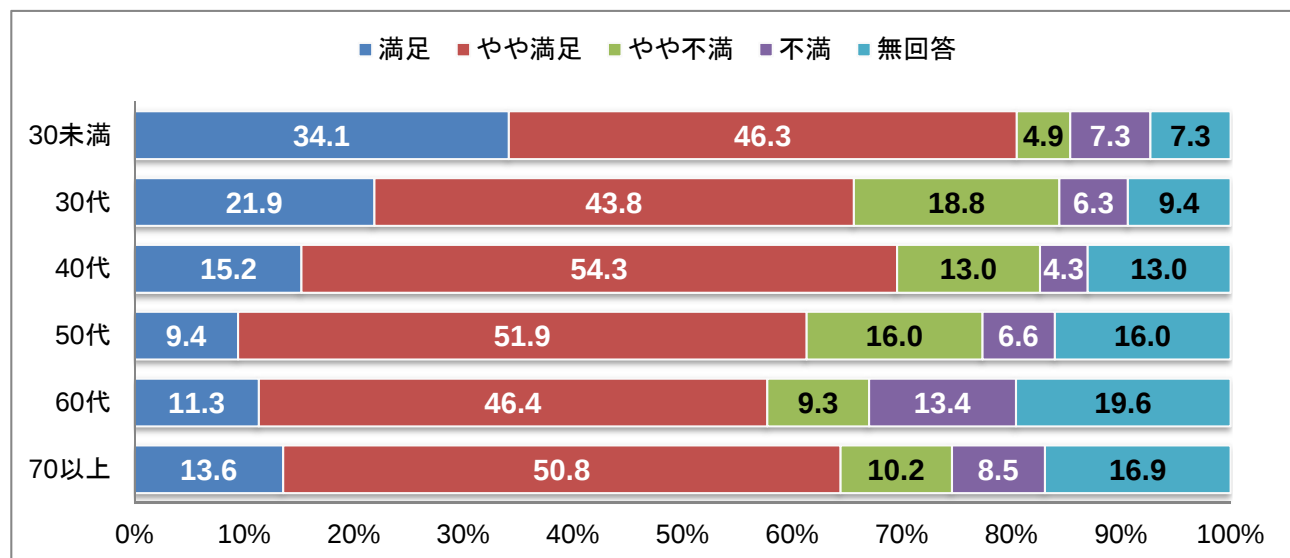
①全体／男女別

〔単位：％〕



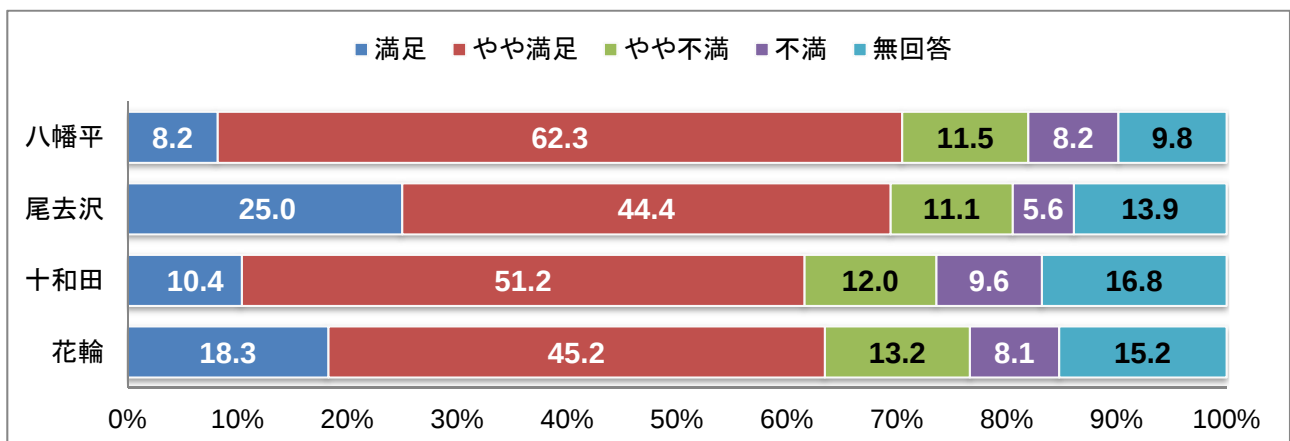
②年代別

〔単位：％〕



③地区別

〔単位：％〕



④分析結果

「満足」、「やや満足」の割合が、64.4%となっており、平成24年度から年々上昇しています。

特に30歳未満の満足度が80.4%と、昨年度の55.3%から大きく上昇しており、子育て世代の満足度が高いことがうかがえます。

一方で、「やや不満」、「不満」は20.7%となっており、「雑草が目立つ」、「トイレの汚れ」などの維持管理に関するものや、「近くにない」、「遊具の老朽化」、「日影が無い」などの整備に関するものが理由として挙げられています。

地区別では「満足」、「やや満足」の割合がいずれも約60%を超える結果となっています。

「無回答」については、「利用しないのでわからない」という理由が多くあり、場所の周知など公園認知度の向上を図ることが必要です。

子どもから高齢者まで、誰もが利用しやすく、地域住民のつながりを深められる場所になるよう充実を検討していく必要があります。

〔参考〕第6次総合計画成果指標と実績値

成果指標	基準値	実績値 (H25)	目標値 (H27)
公園の環境に満足している市民の割合	56.7%	64.4%	71.0%

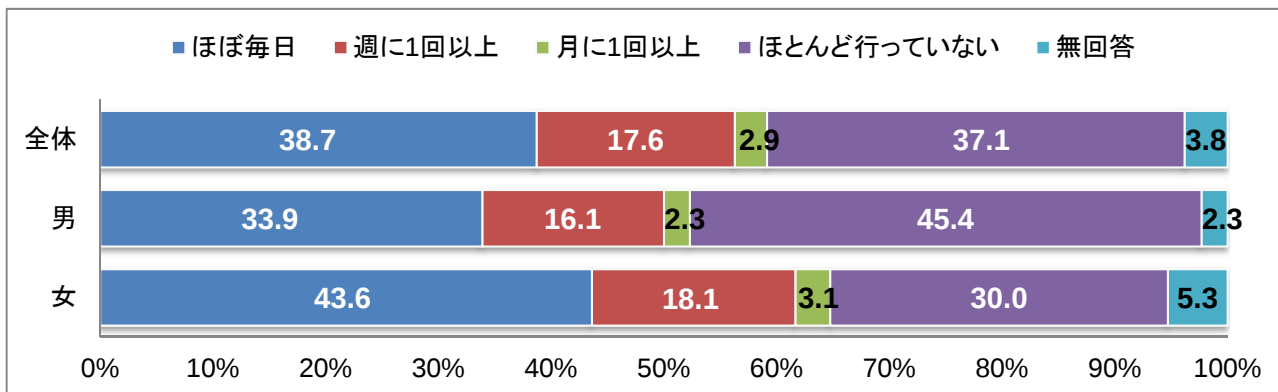
6 運動の実施状況について

設問⑦ あなたは、普段どれくらい「運動」（ウォーキングや軽い体操）や、健康を意識した「生活活動」（農作業や家事、階段の上り下り等も含む）を行っていますか。

また、1回あたりの運動時間はどのくらいですか。

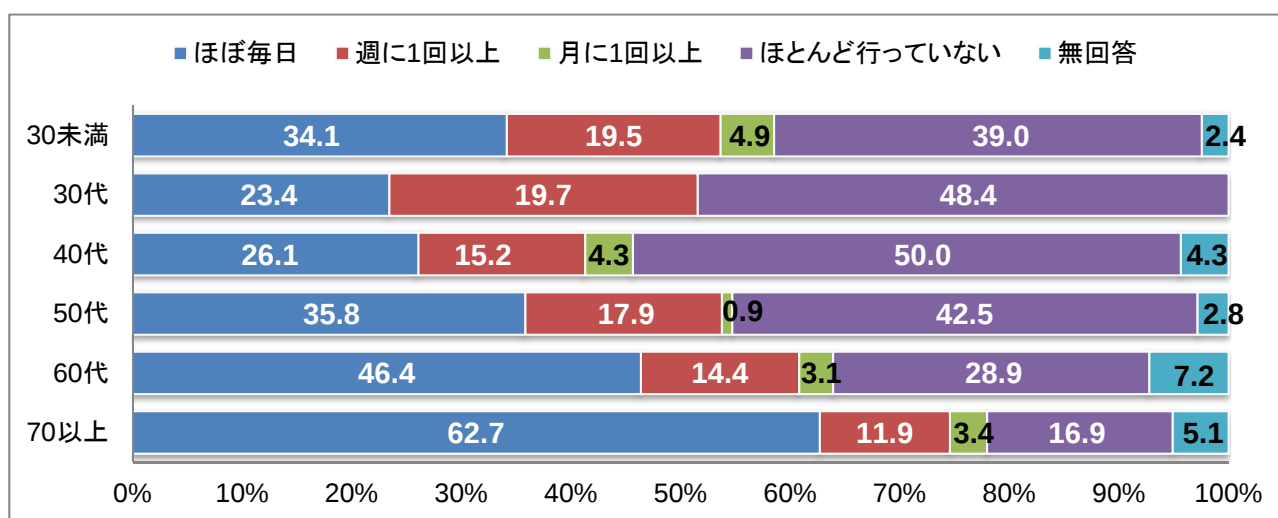
①全体／男女別

〔単位：％〕



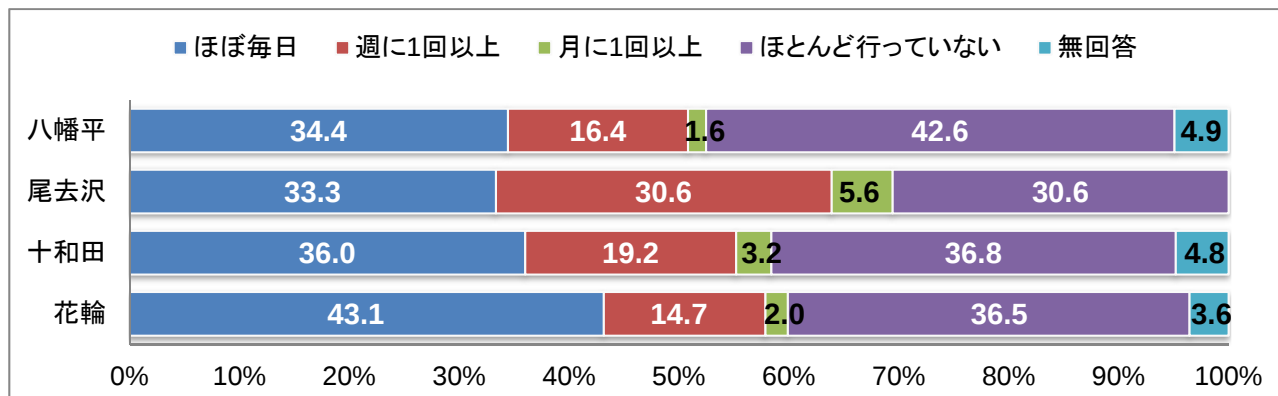
②年代別

〔単位：％〕

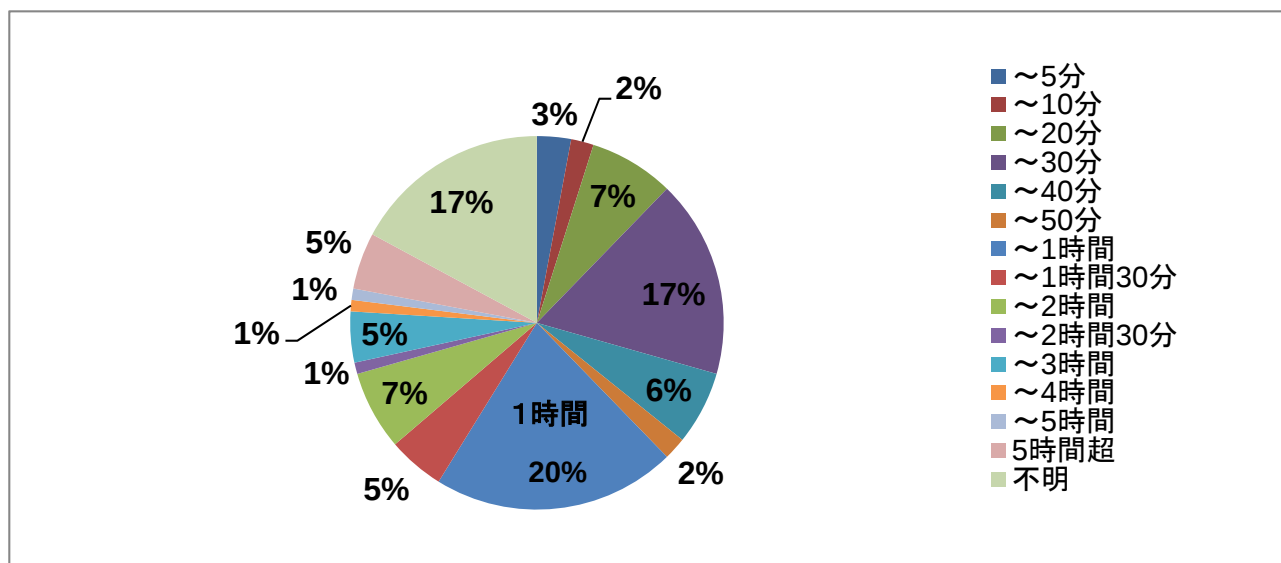


③地区別

〔単位：％〕



④ 1 回あたりの運動時間



⑤ 分析結果

週 1 回以上、運動等を実施している市民の割合は、健康を意識した「生活活動」も運動やスポーツと密接に関係していることに理解が深まり、56.3%と昨年度を上回る結果になりました。

主に行っている運動は、ウォーキングやランニングのほか、散歩、ストレッチ、ラジオ体操が多く、1 回あたりの運動時間は 1 時間程度が最も多い結果で、昨年度と同様の傾向が見られます。

年代別にみると、50 代以上では家事や農作業が多くなっており、日常的な生活活動動作も運動と意識して取り組んでいると考えられます。

また、30 代から 50 代で実施率が低く、働く世代に対する運動の機会や運動に対する意識の醸成が求められます。

〔参考〕第 6 次総合計画成果指標と実績値

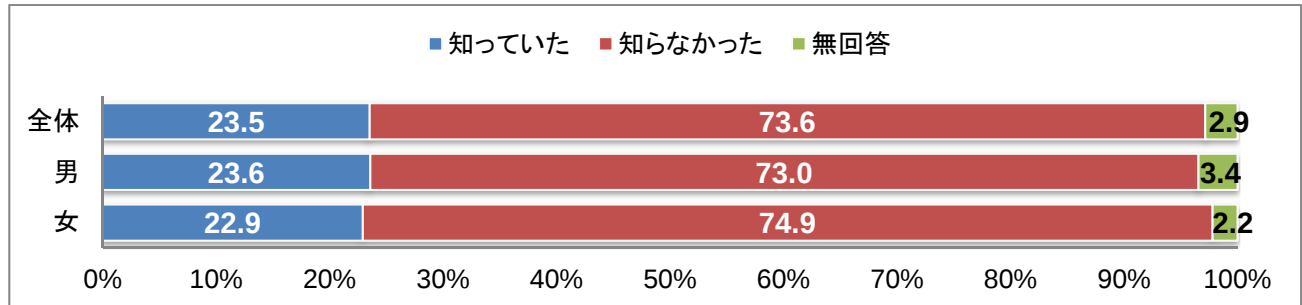
成果指標	基準値	実績値 (H25)	目標値 (H27)
週 1 回以上の頻度で運動やスポーツを実施する市民の割合	34.6%	56.3%	47.0%

7 男女共同参画の状況について

問⑧-1 あなたは、「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っていましたか。

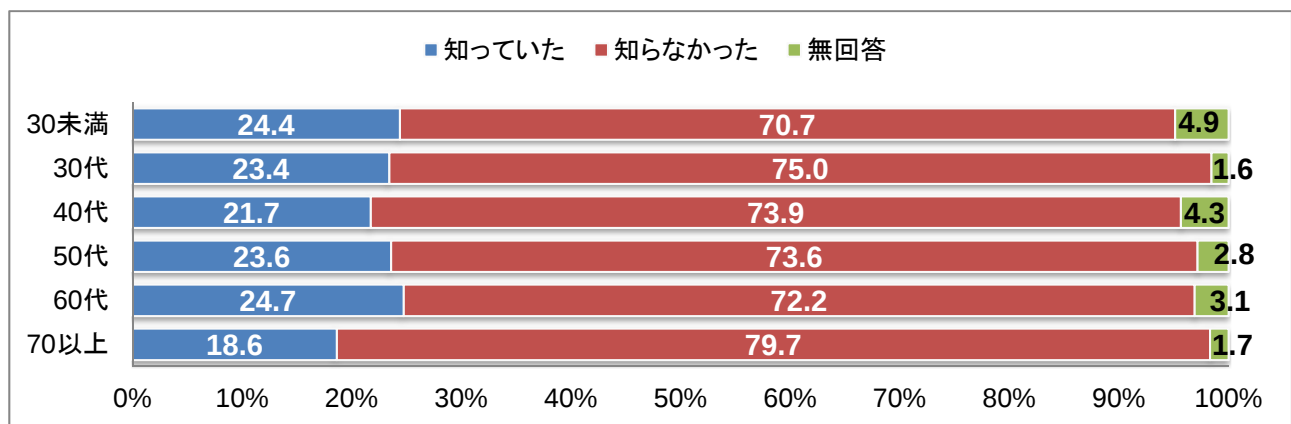
①全体／男女別

〔単位：％〕



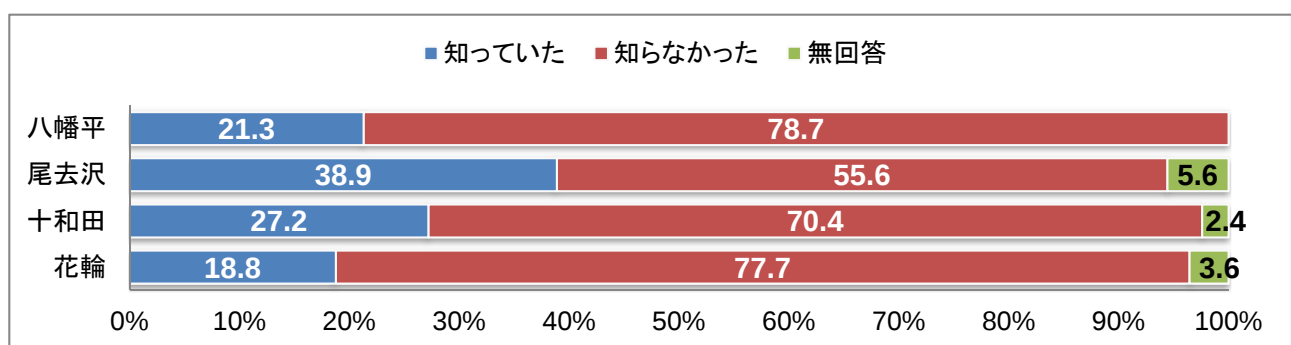
②年代別

〔単位：％〕



③地区別

〔単位：％〕



④分析結果

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っている人の割合は 23.5％と、昨年の調査から 1.4 ポイントの低下となり、認知度はほぼ変わっていない状況です。

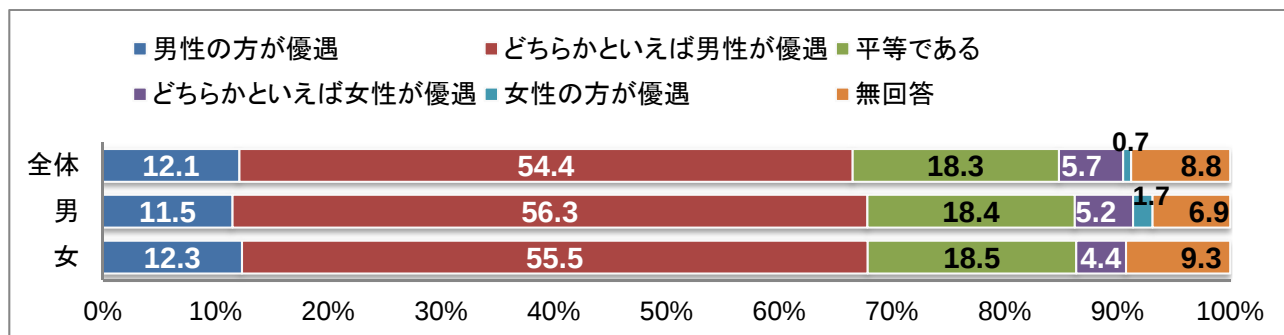
年代別でみると、30 歳未満が 24.4％と初めて 2 割を超えましたが、認知度は依然として低い状況にあります。

地区別では尾去沢地区が最も認知度が高い結果となりましたが、全体的に認知度を上げる取り組みが必要です。

問⑧-2 あなたは、地域社会全体でみた場合、男女の地位は平等になっていると思いますか。

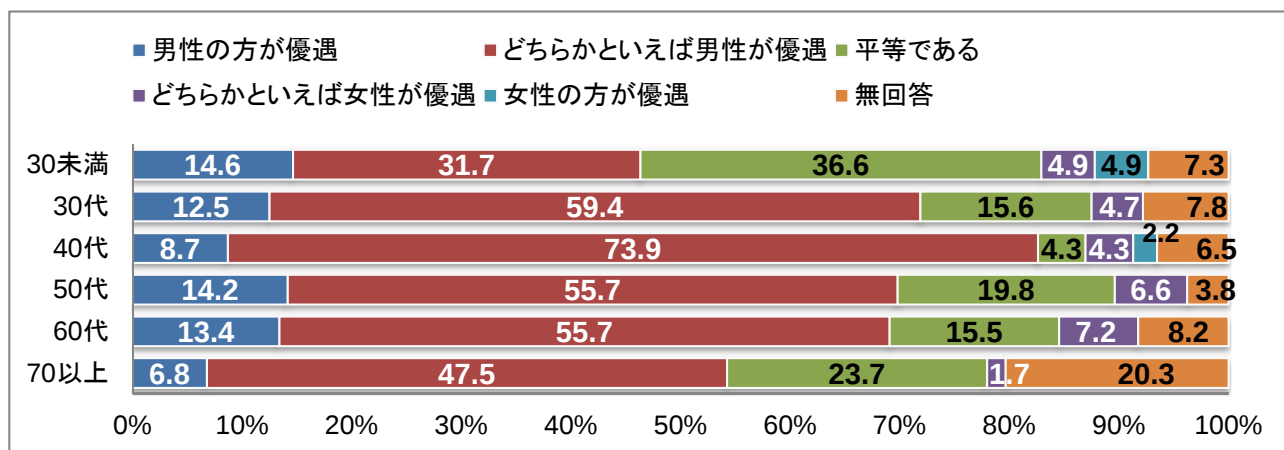
①全体／男女別

〔単位：％〕



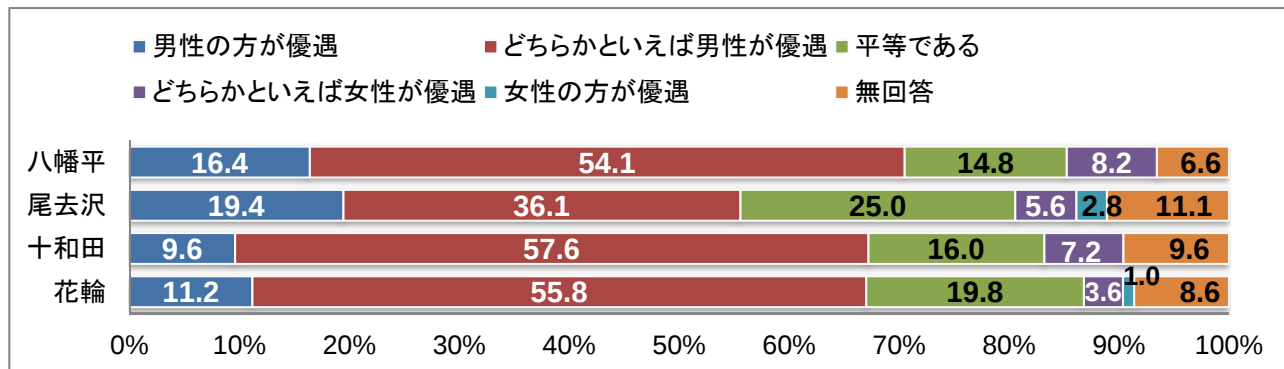
② 年代別

〔単位：％〕



③ 地区別

〔単位：％〕



④分析結果

「男女の地位が平等である」と答えた人の割合は、18.3%と昨年度の18.1%とほぼ同じ状況となりました。

「男性が優遇されている」と答えた人は、「どちらかといえば男性が優遇されている」も含めると66.5%と高い状況となっています。

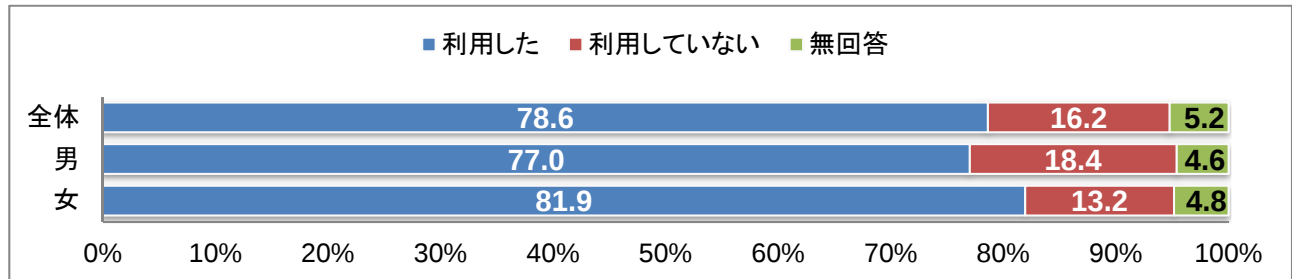
年代別にみると、30歳未満の「平等である」が36.6%と突出しており、若年層への男女共同参画に関する取り組みの成果であるのか、一過性のものか今後の動向を注視する必要があります。

8 地域医療について

問⑨-1 あなた（未成年のお子さんがある場合はその方を含む）は過去 1 年間で、医療機関を利用しましたか（歯科医を除く、検診及び予防接種を含む）。

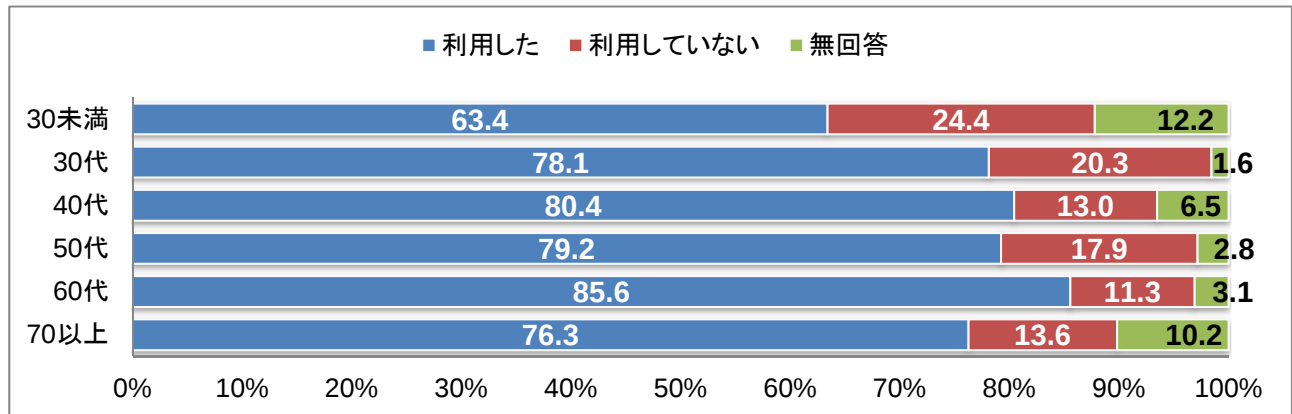
①全体／男女別

〔単位：％〕



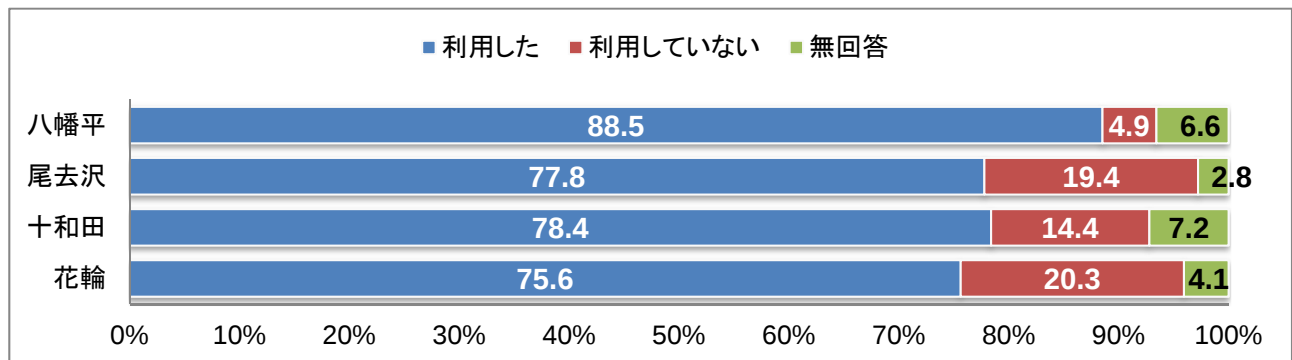
②年代別

〔単位：％〕



③地区別

〔単位：％〕



④分析結果

過去 1 年間で検診や予防接種も含め医療機関を利用した人の割合は、78.6%と高い水準であり、このことから多くの方が医療機関を利用していることが分かります。

男女別にみると女性が81.9%と、男性より 5.1 ポイント高くなっています。

年代別にみると 60 代の 85.6%が一番高いですが、30 歳未満を除く年代では一様に約 8 割利用していることから、必ずしも加齢とともに高くなるものではないことが分かります。

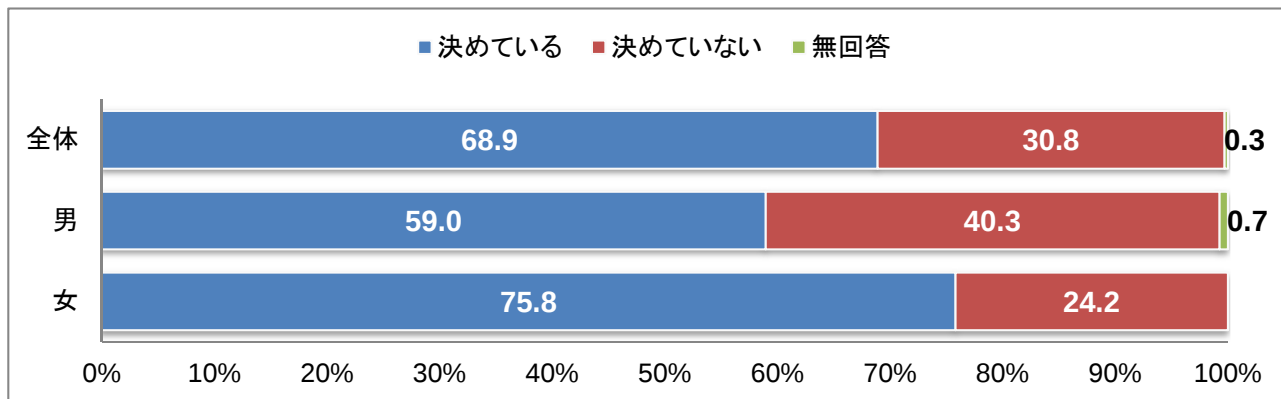
地区別では八幡平が最も高く、花輪地区が 75.6%と最も低くなっています。

問⑨-2 「かかりつけ医」とは、特定の病気の専門医ではなく、日頃からちょっとした病気のと
きに、決まって診てもらっているお医者さんのことです。

あなたは、「かかりつけ医（歯科医を除く、検診及び予防接種を含む）」を決めていますか。

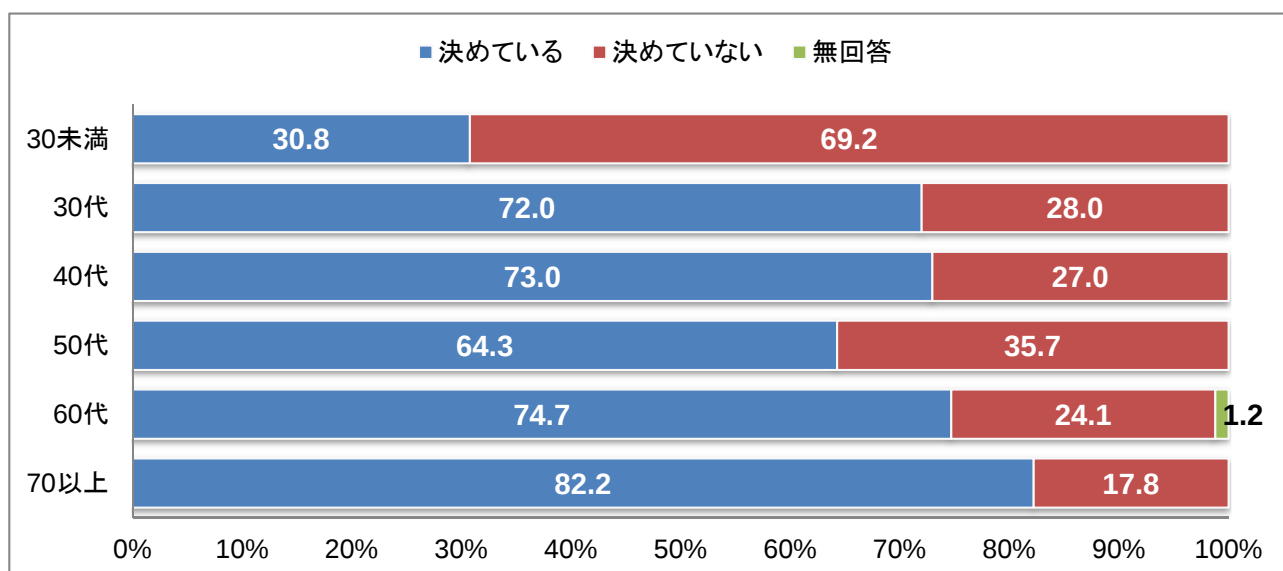
①全体／男女別

〔単位：％〕



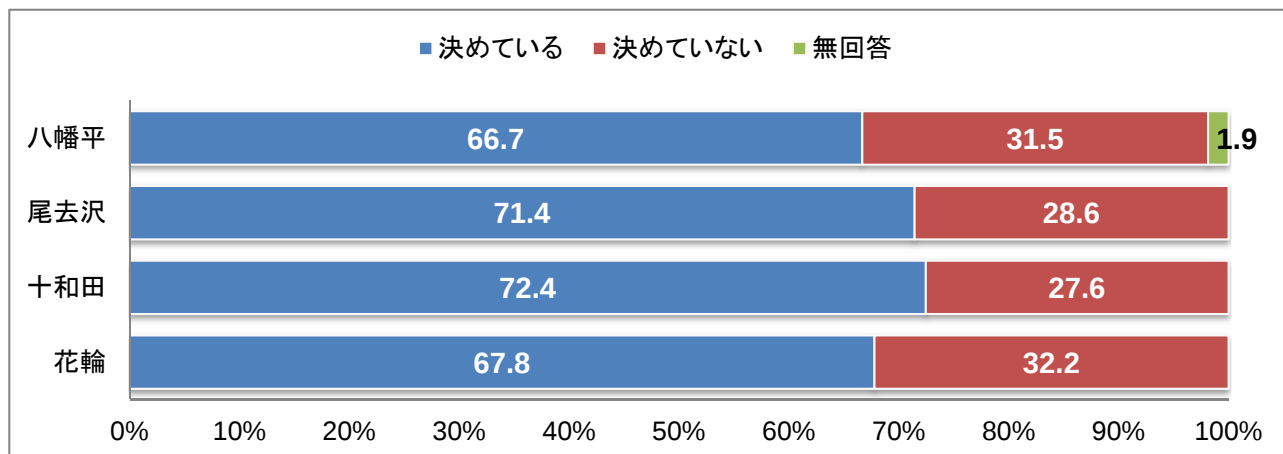
②年代別

〔単位：％〕



③地区別

〔単位：％〕



④分析結果

かかりつけ医を決めていると回答した方は 68.9%で、昨年度比 8.4 ポイントの増となりました。

関係機関と連携した「かかりつけ医を持つこと」の意義、必要性の啓発により、一層の意識づけが浸透してきたものと考えられます。

年代別にみると、加齢とともにかかりつけ医を決めている割合が高くなる傾向がみられ、70 歳以上では 82.2%となっています。

しかし、30 歳未満では 30.8%と半数以下になっていることから、若年層に対するかかりつけ医という制度とそのメリットを周知していく必要があります。

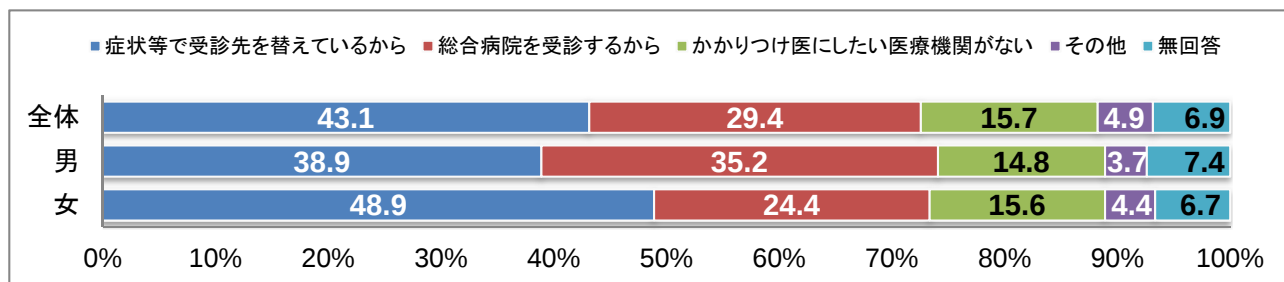
〔参考〕第 6 次総合計画成果指標と実績値

成果指標	基準値	実績値 (H25)	目標値 (H27)
かかりつけ医を持っている市民の割合	64.1%	68.9%	65.0%

問⑨-3 問⑨-2 で「2. 決めていない」を選んだ方におたずねします。それはどのような理由からですか。

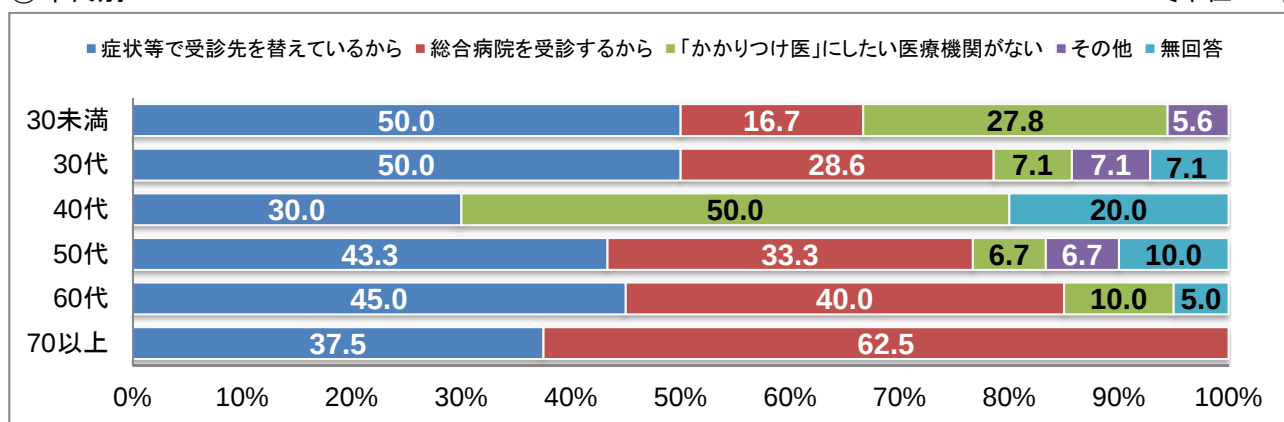
①全体／男女別

〔単位：％〕



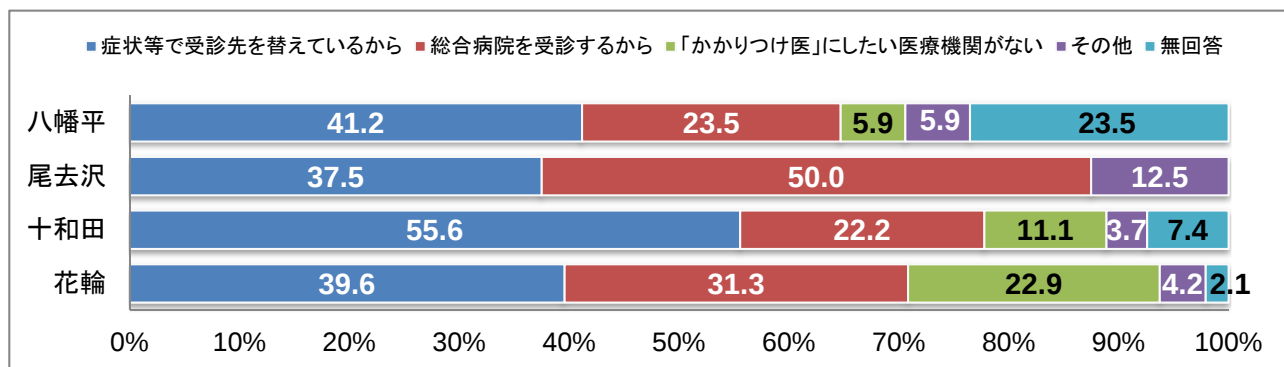
②年代別

〔単位：％〕



③地区別

〔単位：％〕



④分析結果

かかりつけ医を決めていない理由として、全体的に症状等で受診先を替えている割合が高くなっており、男女別でみると女性が48.9%と高くなっています。

年代別でみると、40代の50.0%が「かかりつけ医にしたい医療機関がない」と回答しており、市外の医療機関で受診されている可能性が高いことが考えられますが、この傾向は、昨年度30代、50代、60代に見られた傾向であるため、個々の都合によりかかりつけ医を決めていない理由が変化しているものと考えられます。

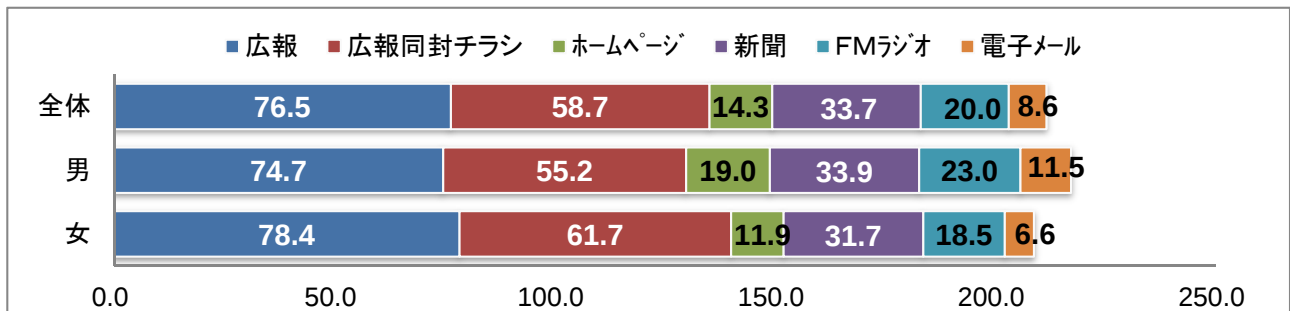
地区別では、症状で受診先を替える、総合病院を受診する、の順で推移していますが、花輪地区においては「かかりつけ医にしたい医療機関がない」という回答の割合が他地域に比べ多くなっています。

9 行政情報などの取得方法について

設問⑩ あなたは市の情報（お知らせ）を入手する手段として実際に利用し、欠かせないと感じているものはどれですか。（複数回答可）

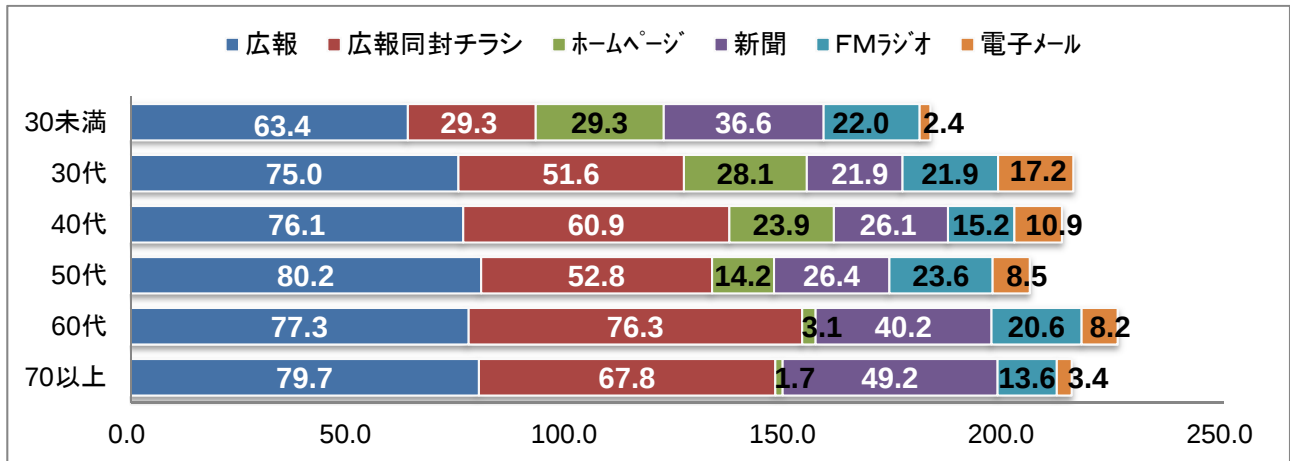
①全体／男女別

〔単位：％〕



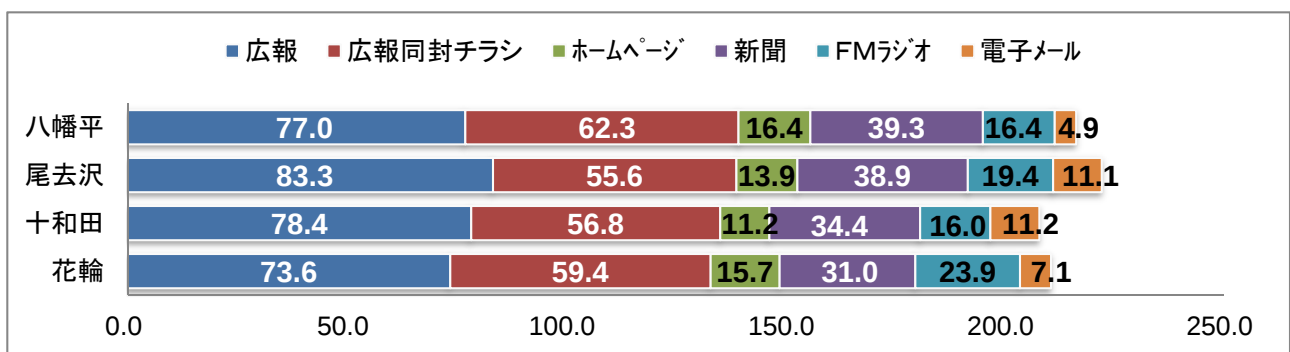
②年代別

〔単位：％〕



③地区別

〔単位：％〕



④分析結果

行政情報の取得に最も利用されている手段は、広報誌が最も多く、次いで広報同封チラシと紙面による情報の入手が全回答数の約8割に上っています。特に、情報をスポットでお知らせする広報同封チラシも、58.7%と欠かせない手段となっていることが分かりました。

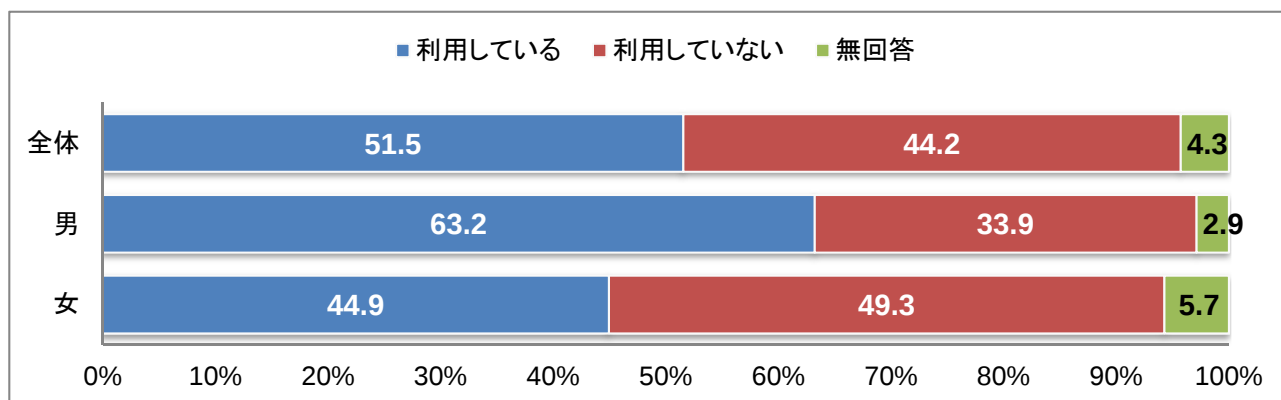
ホームページの利用は全回答数の1割以下となっており、年代別にみると年代が上がるにつれて利用されていない結果が表れています。

10 地域情報化について

設問⑪-1 あなたはインターネットを利用していますか。

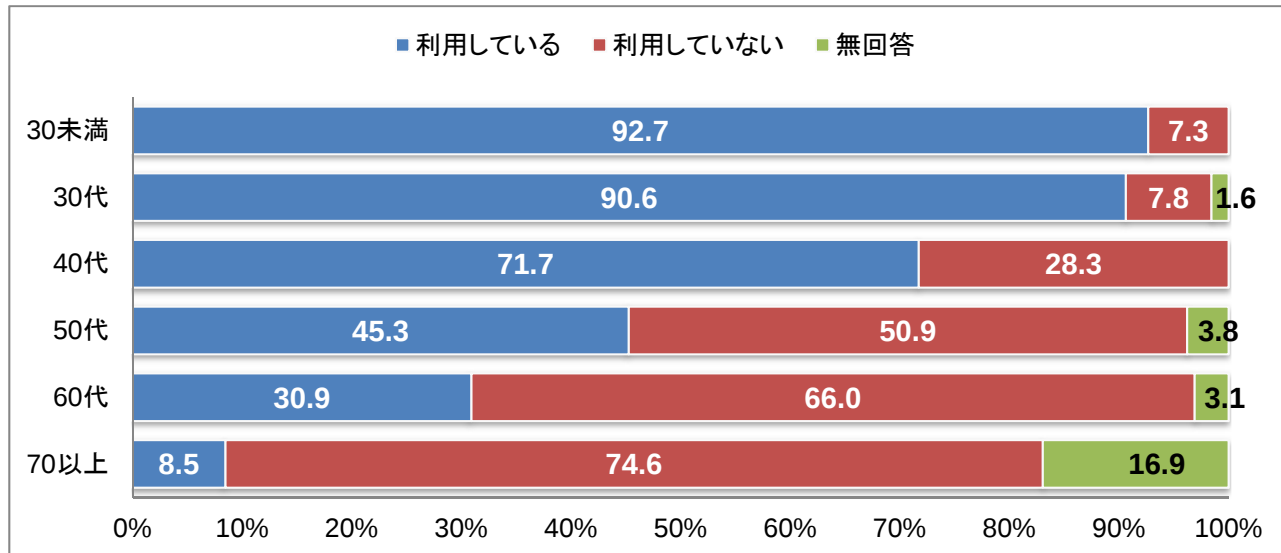
①全体／男女別

〔単位：％〕



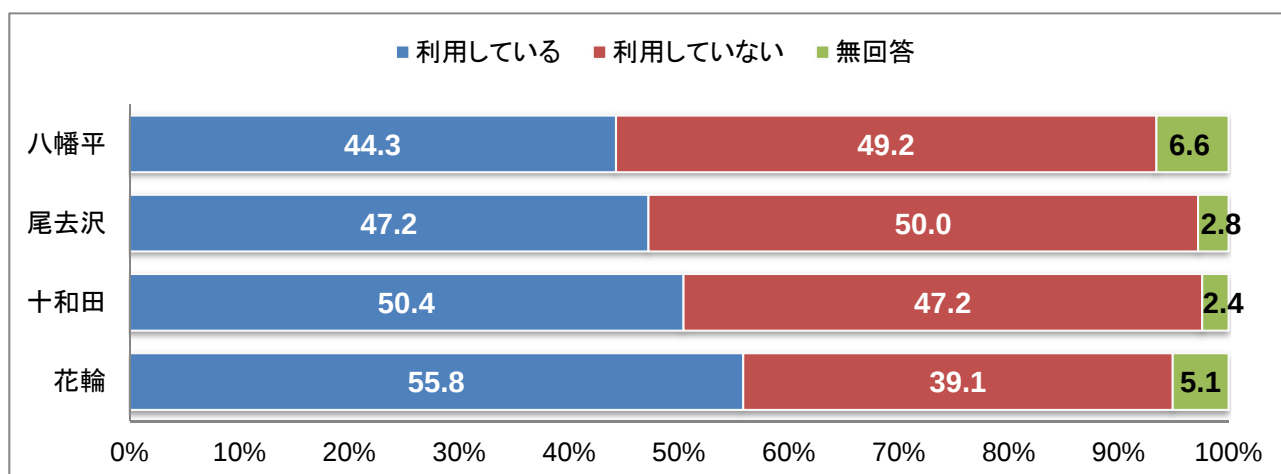
②年代別

〔単位：％〕



③地区別

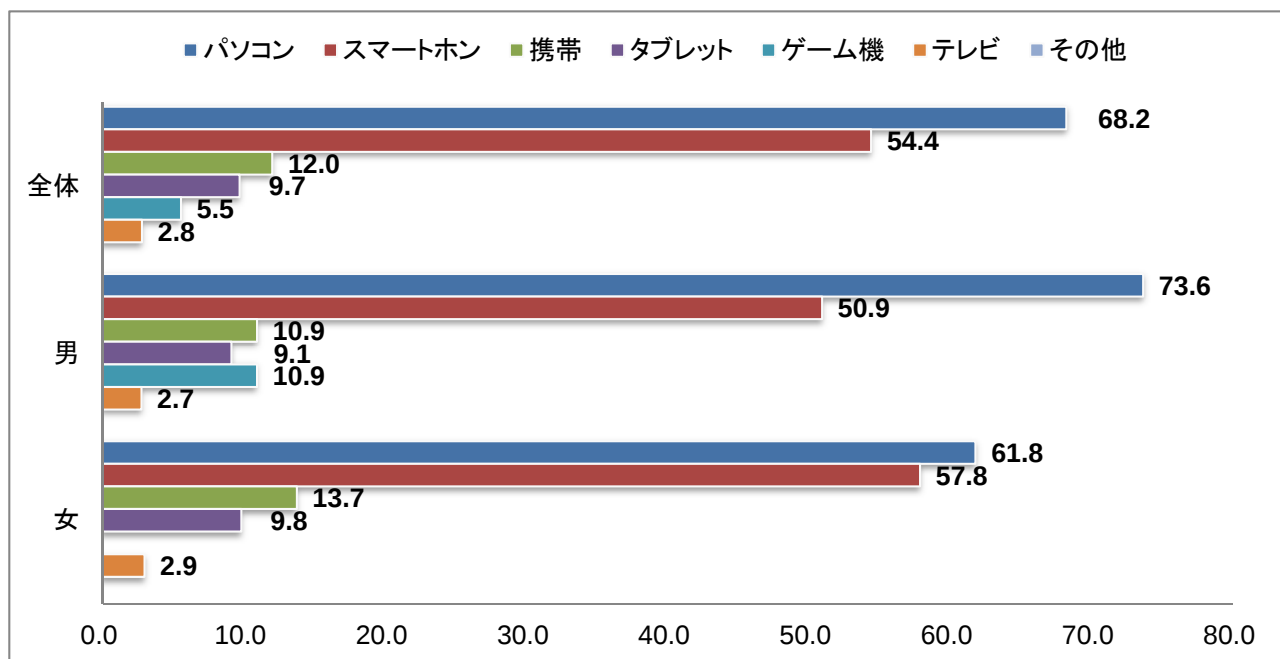
〔単位：％〕



◆利用している場合の利用機器（すべて回答）

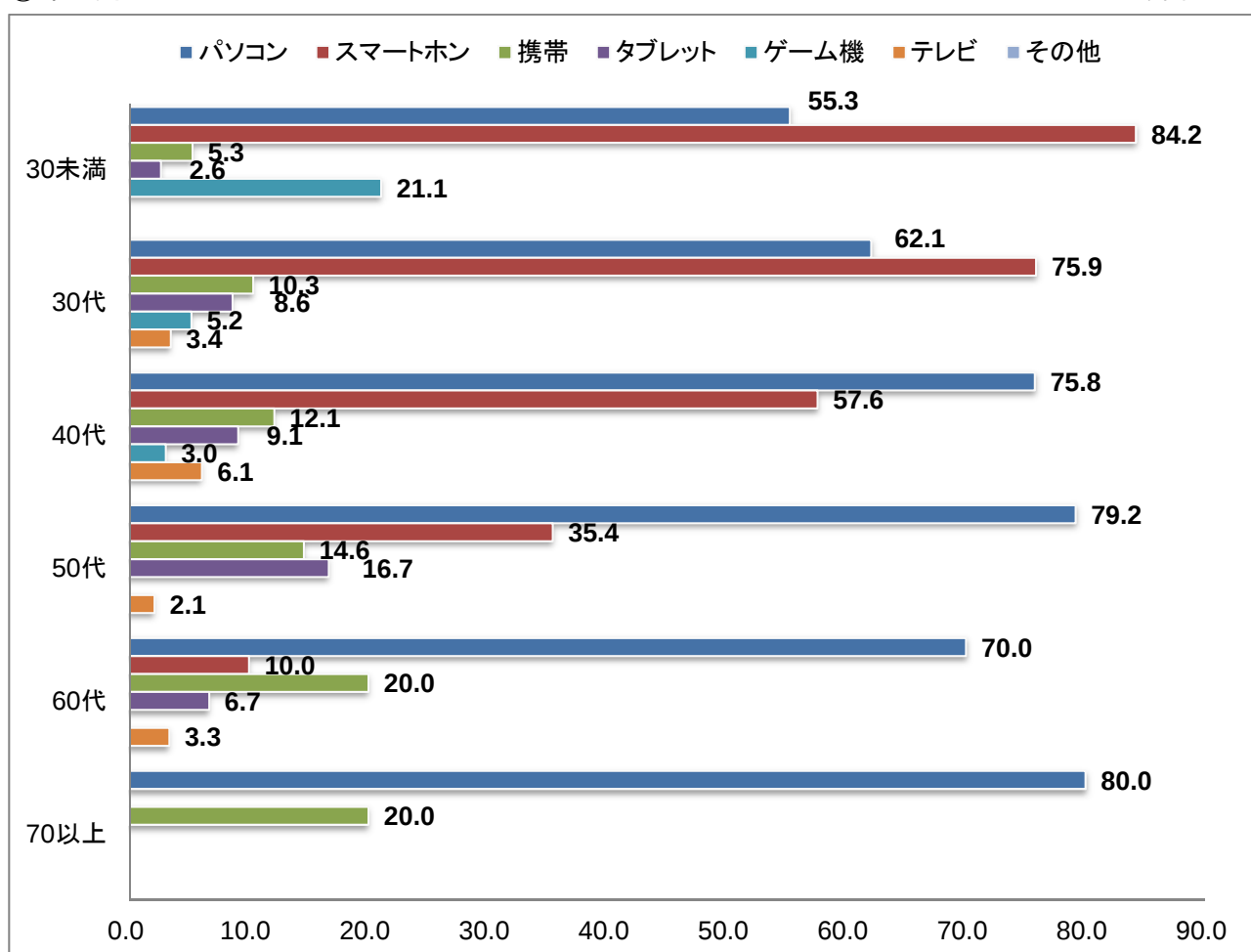
①全体／男女別

[単位：％]



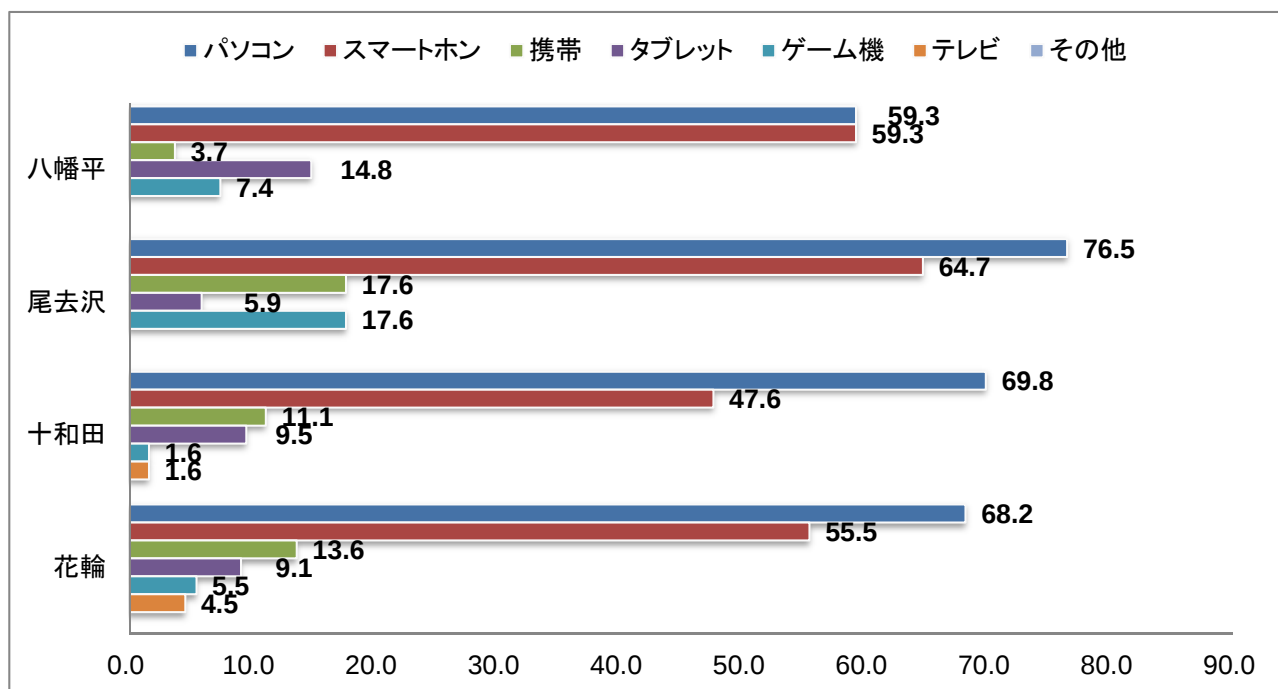
②年代別

[単位：％]



③地区別

[単位：％]



④分析結果

インターネットを利用している割合は51.5%で、昨年と比べ1.1ポイント上昇しています。

年代別にみると、30代以下では9割を超える利用状況にありますが、年代が上がるにつれて利用割合は低くなり、50代以上から5割を下回り70代以上では1割以下となっています。

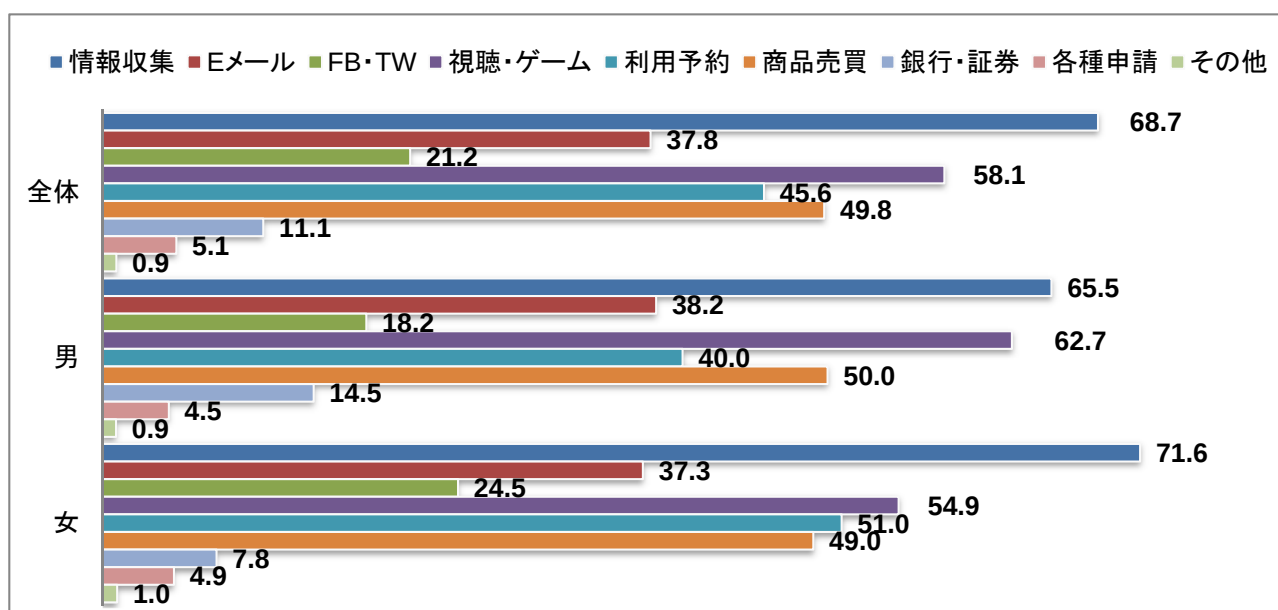
利用機器別でみると、パソコンの利用が68.2%、次いでスマートフォン54.4%、携帯電話12.0%となっています。

各年代を通してパソコンの利用割合が高い状況ですが、30代以下では、パソコンよりもスマートフォンの利用割合が高く、若年層を中心に普及が進んでいることがうかがえます。

問⑪-2 問⑪-1で「1. インターネットを利用している」と答えた方にお聞きします。インターネットをどのような目的で使用していますか（すべて回答）。

①全体／男女別

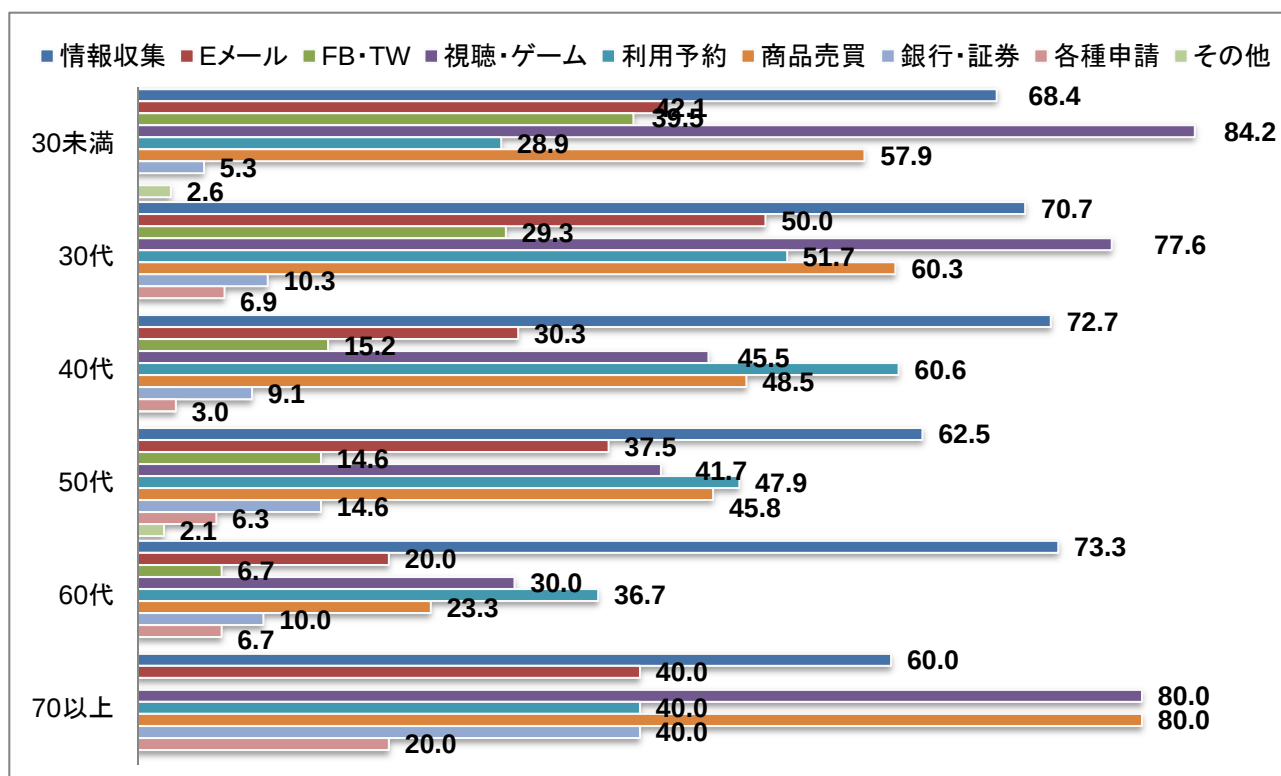
[単位：％]



※FB=フェイスブック・TW=ツイッター

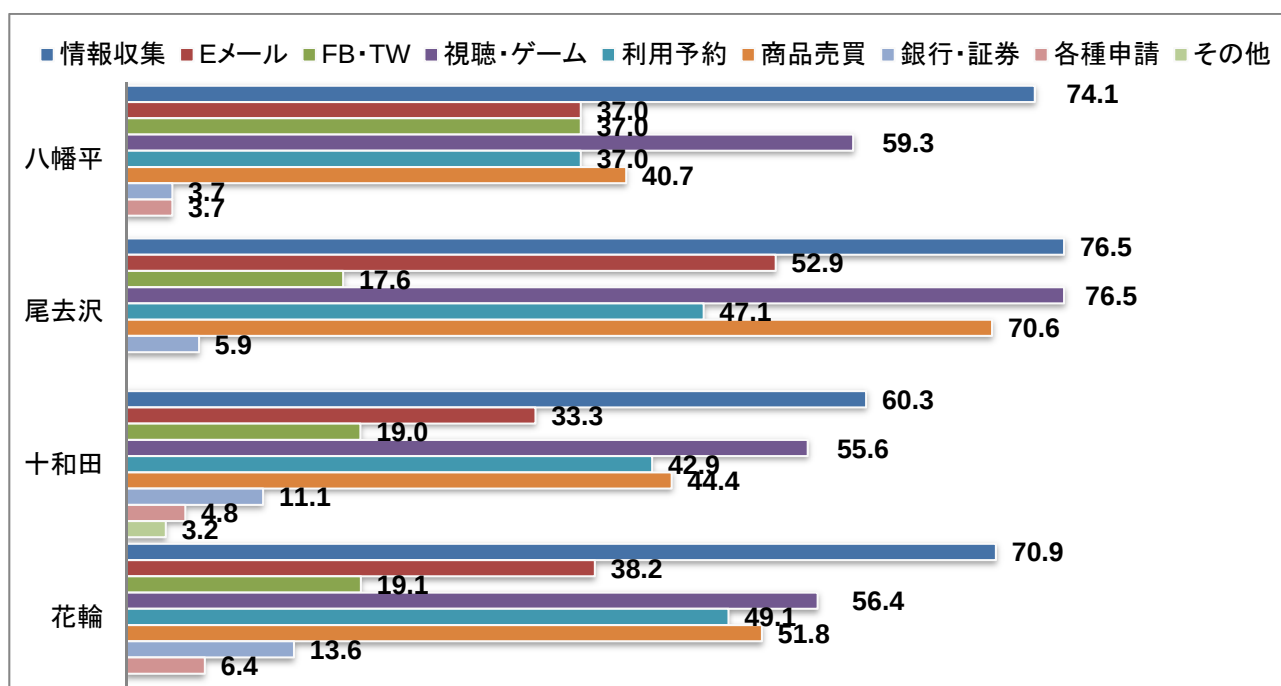
②年代別

[単位：％]



③地区別

[単位：％]



④分析結果

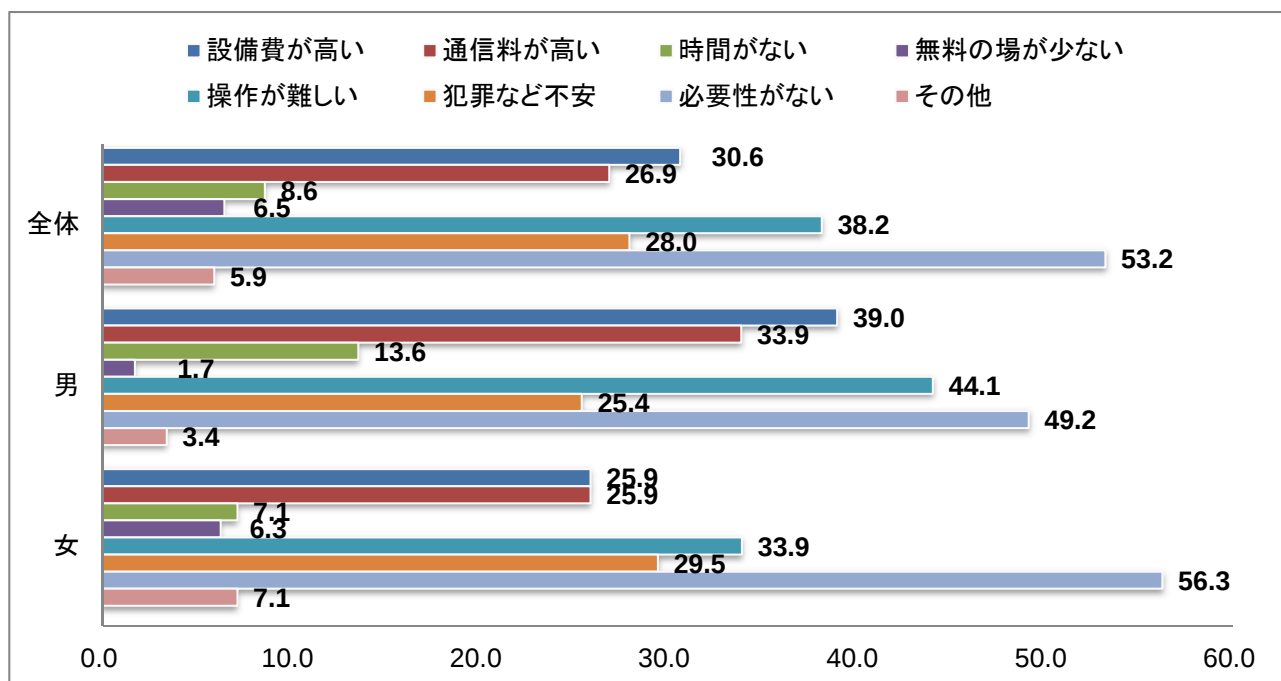
インターネットの利用目的については、情報収集が68.7%と最も高く、次いで動画等の視聴やオンラインゲームの利用が58.1%、商品の売買が49.8%、施設・ホテルや交通機関の予約が45.6%となっています。

年代別にみると、30代以下の年代では、動画等の視聴やオンラインゲームの利用割合が最も高く、40代以上の年代では情報収集や利用予約の割合が高い状況となっています。

問⑪-3 問⑩-1で「2. インターネットを利用していない」と答えた方にお聞きします。インターネットを利用しないのはどのような理由からですか（3つまで回答）。

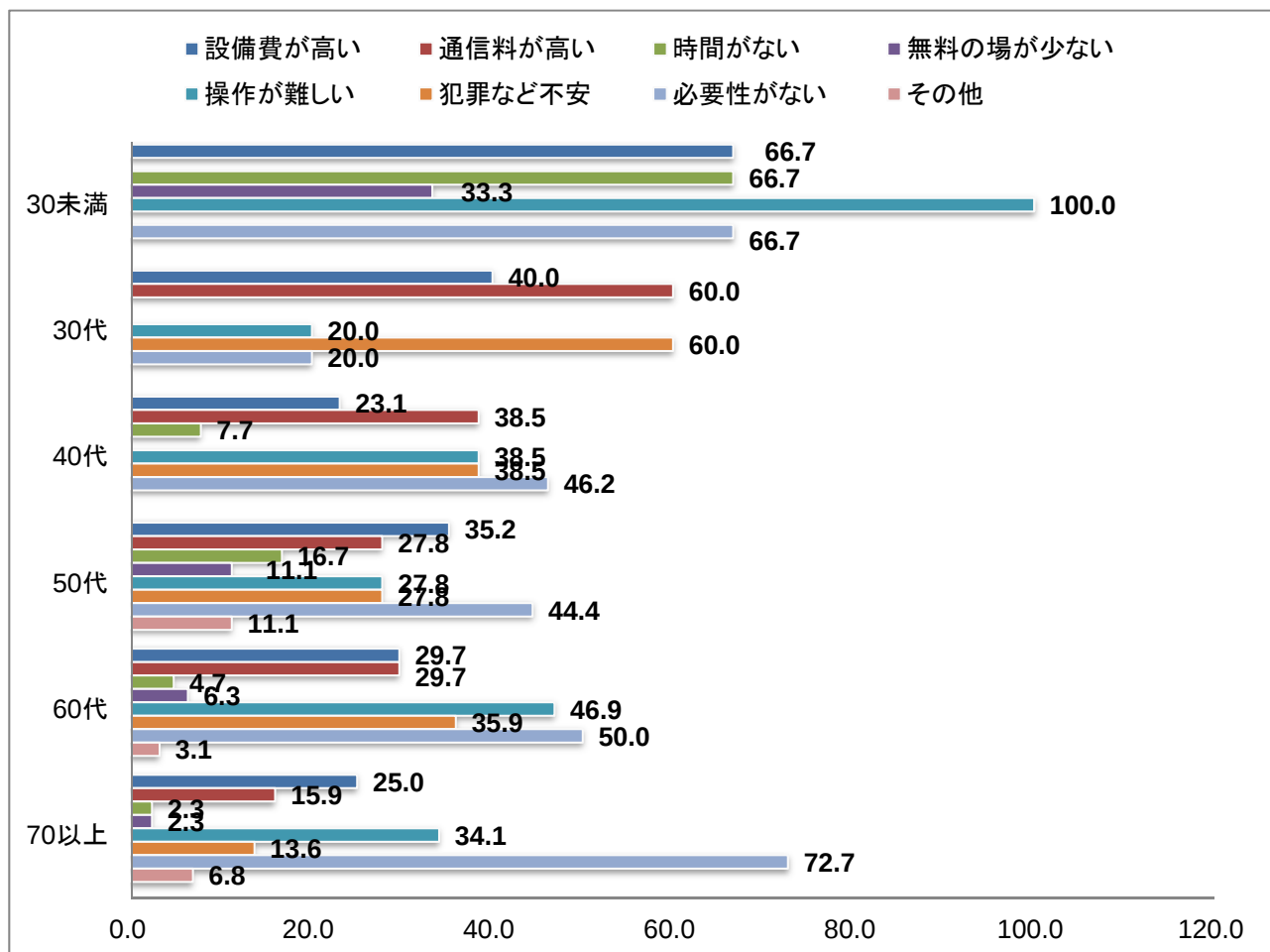
①全体／男女別

〔単位：％〕



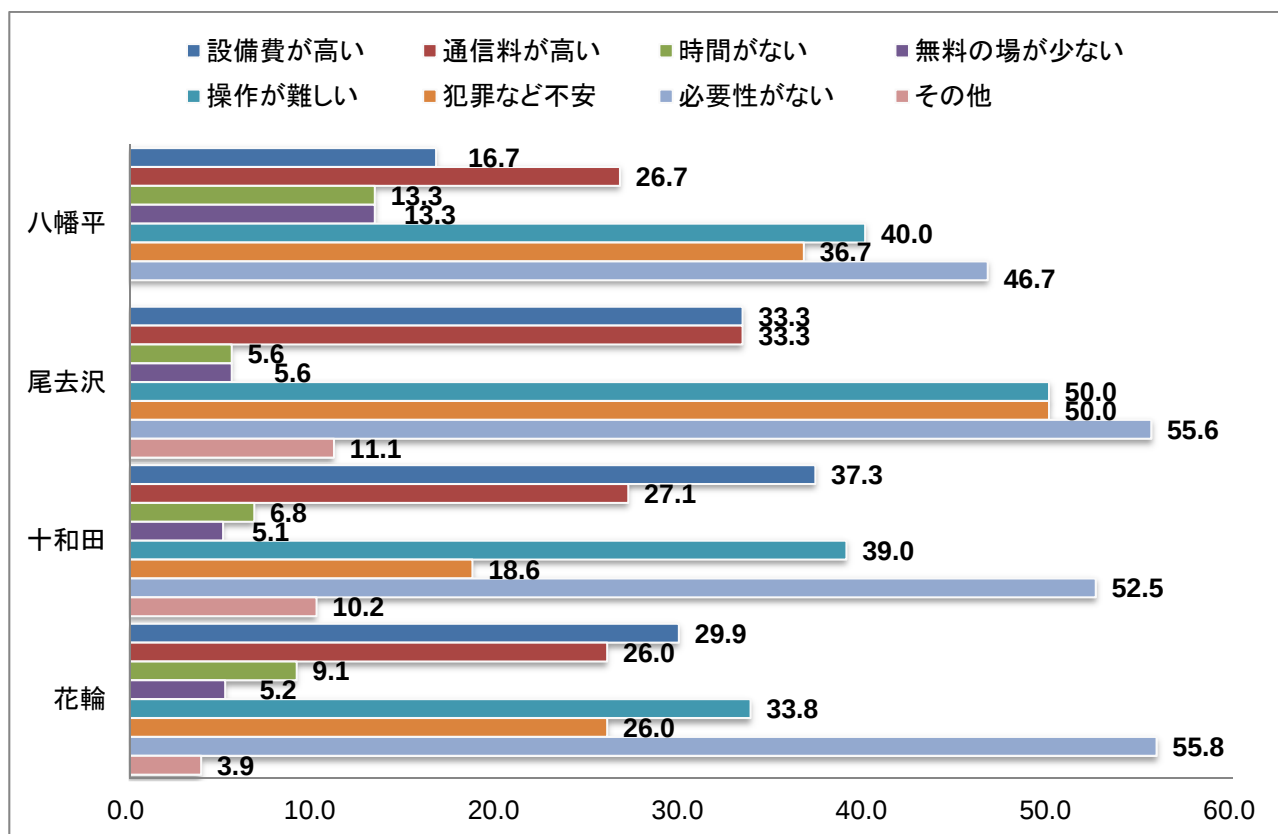
②年代別

〔単位：％〕



③地区別

[単位：％]



④分析結果

インターネットを利用しない理由については、「必要性がない」が53.2%と最も高く、次いで「設定や操作が難しい」が38.2%、「機器や設置費用が高い」が30.6%となっています。

年代別にみると「必要性がない」との回答は、年代が上がるにつれてその割合が高くなり、特に70代以上では7割を超える状況となっています。

今後の普及率向上の見通しについては、インターネット利用割合を前年の調査結果（※）と比較すると、40代以下よりも50代以上の利用割合の増加が顕著に見られるほか、50代以上の年代にも、インターネットの利用機器としてタブレット端末を挙げる回答が多くなってきており、こうしたIT機器の操作性向上等の進化とともに、インターネットの利用機会は増えてくるものと推測されます。

（※）H25年調査結果（インターネットの利用割合）：全体＝50.4%、30代以下＝92.1%、30代＝93.4%、40代＝70.1%、50代＝41.5%、60代＝31.4%、70代以上＝4.8%）

〔参考〕第6次総合計画成果指標と実績値

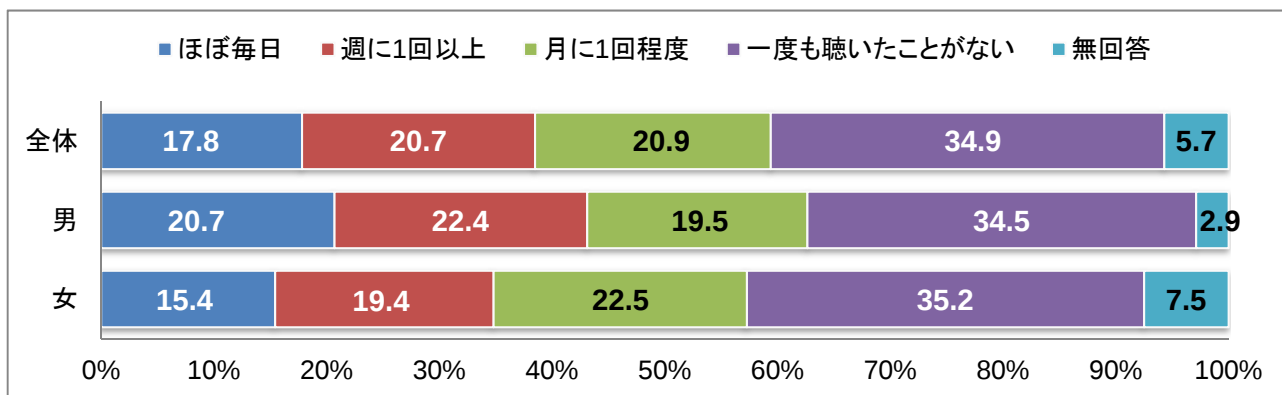
成果指標	基準値	実績値 (H25)	目標値 (H27)
インターネット人口普及率	53.9%	51.5%	60.0%

11 コミュニティFMの利用について

設問⑫-1 あなたは鹿角きりたんぼFM（79.1MHz）をどの程度聴いていますか。

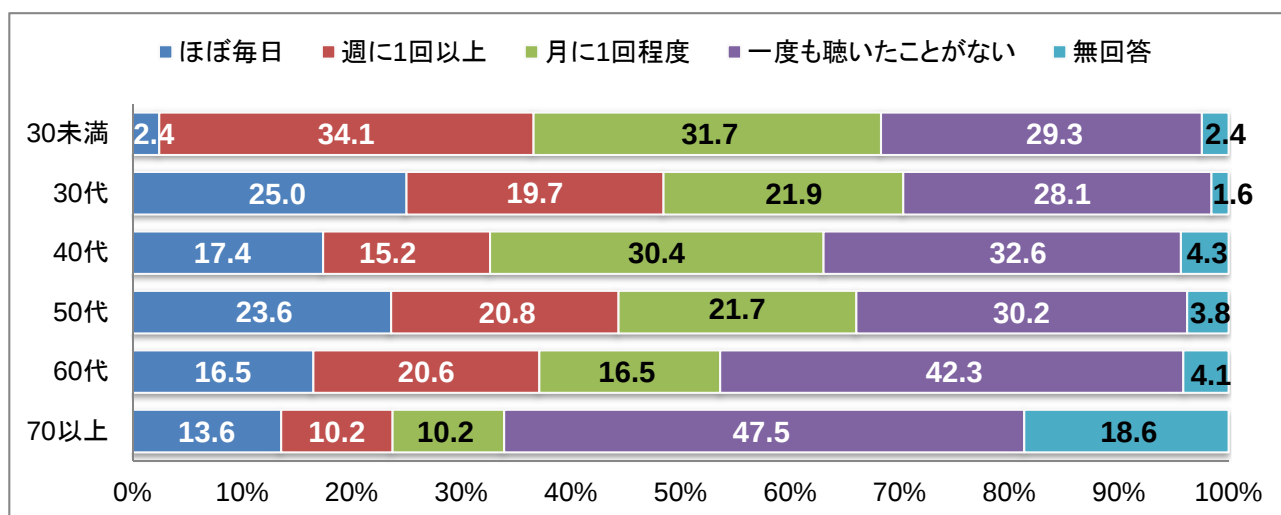
①全体／男女別

〔単位：％〕



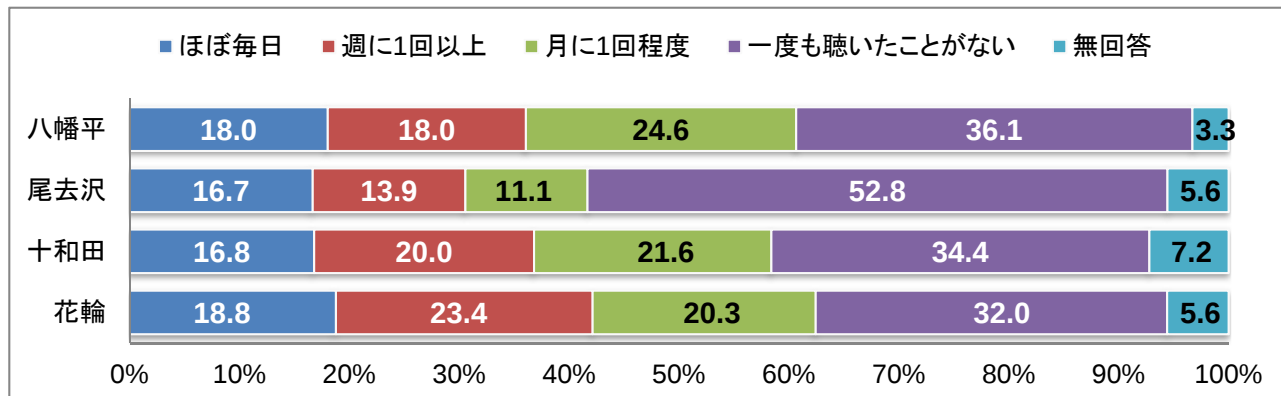
②年代別

〔単位：％〕



③地区別

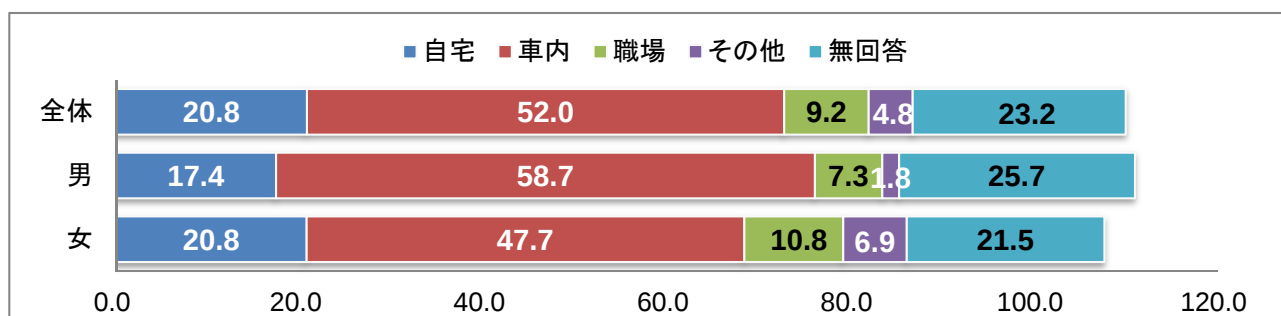
〔単位：％〕



④主に聴いている場所（複数回答）

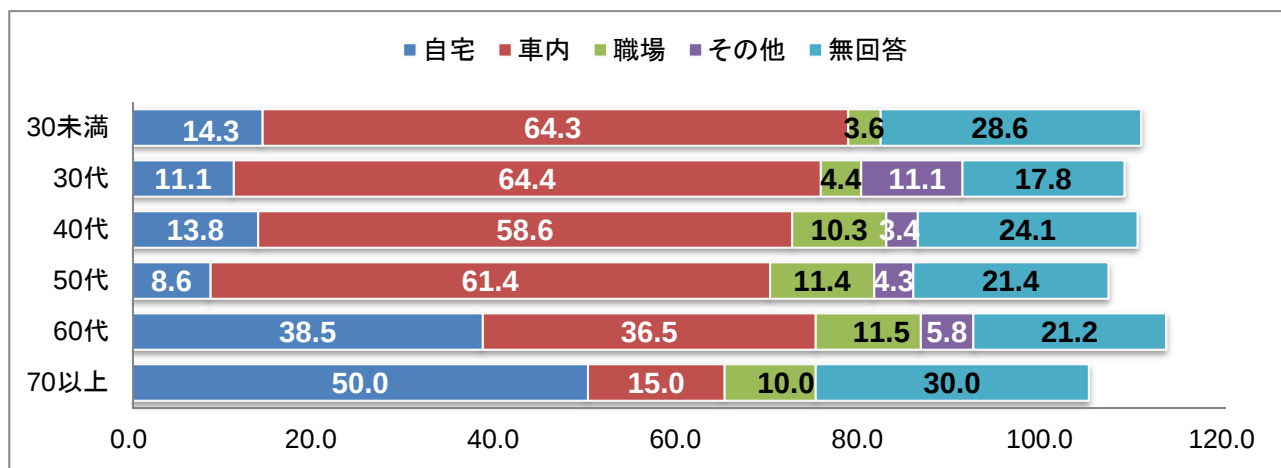
全体／男女別

〔単位：％〕



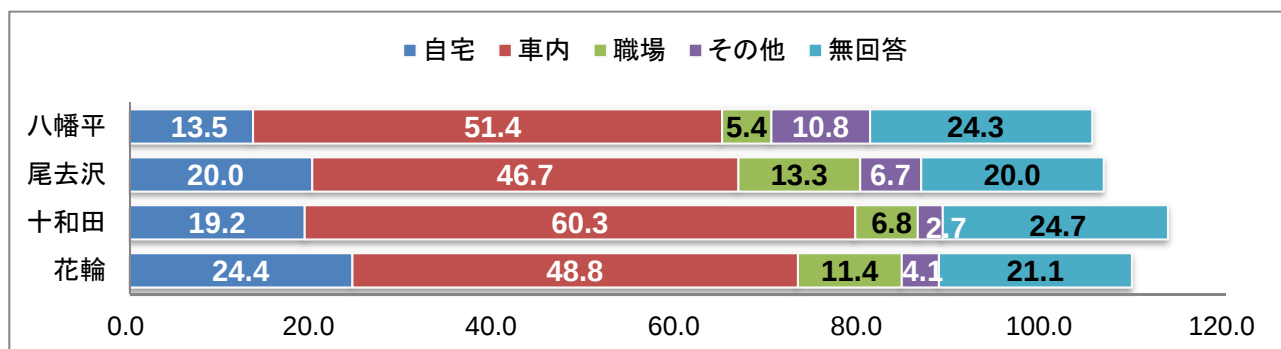
年代別

〔単位：％〕



地区別

〔単位：％〕



⑤分析結果

鹿角きりたんぼFMをどの程度聴いているかがったところ、「ほぼ毎日」と答えた方は17.8%、「週に1回以上」「月に1回以上」と答えた方はそれぞれ約20%となり、合わせて6割の方が聴いている結果となりました。

一方、「一度も聴いたことがない」と答えた方を年代別にみると、30歳未満から50代までは30%前後で推移していますが、60代以上となると40%を超えているほか、地区別にみると、尾去沢地区で高い割合を示しています。

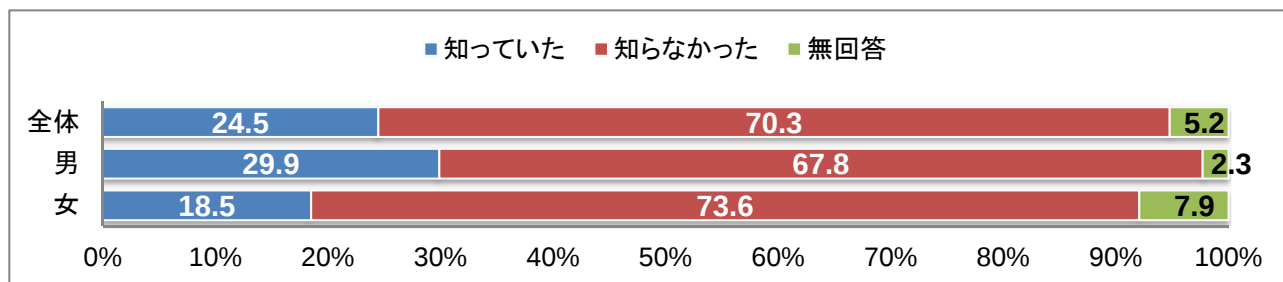
また、聴いている場所をうかがったところ、52.0%が「車内」と回答しており、年代別では、50代以下でその割合が高く、60代以上の回答では「自宅」が多い結果となっています。

これらの結果から、鹿角きりたんぼFMは比較的若い年代を中心に、日常の通勤や買い物等の移動中に多く聞かれている様子がうかがえ、高齢者への浸透が課題となっています。

問⑫-2 鹿角きりたんぼ FM には、サイマル放送（インターネット放送）があるのを知っていましたか。

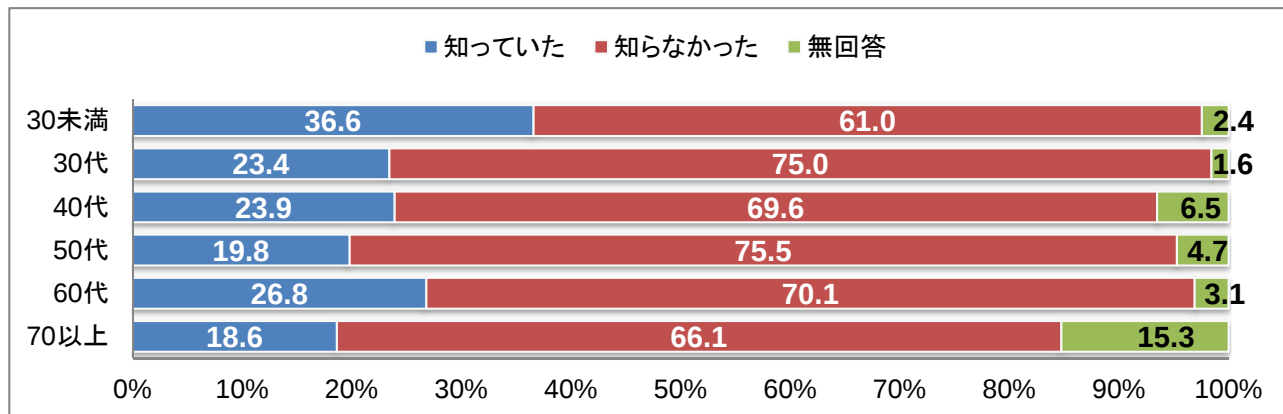
①全体／男女別

〔単位：％〕



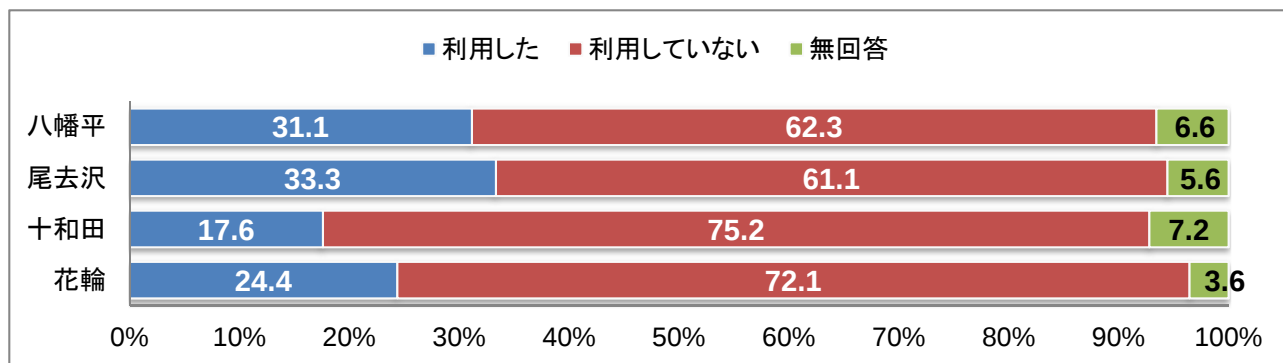
②年代別

〔単位：％〕



③地区別

〔単位：％〕



④分析結果

鹿角きりたんぼFMが4月から開始したサイマル放送の認知度をうかがいました。

「知っていた」との回答は24.5%で全体の4分の1程度にとどまり、約7割の方が「知らなかった」と回答しています。

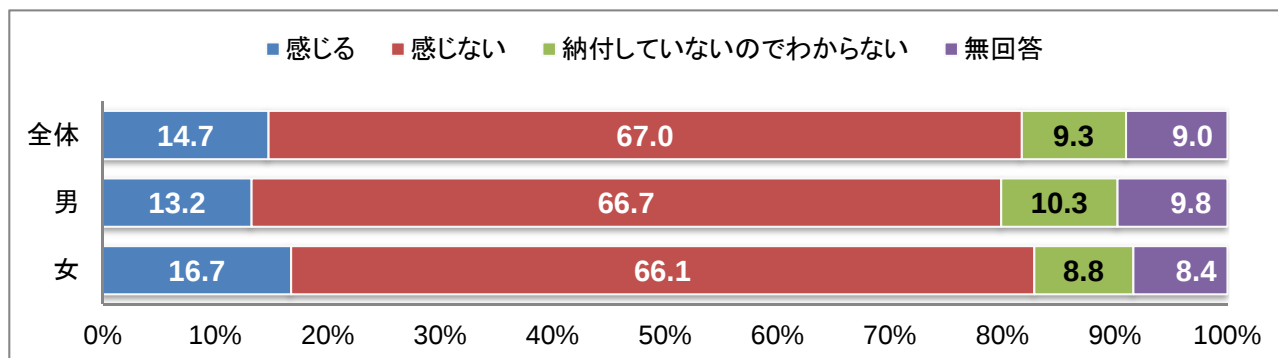
「知っていた」と回答した方の割合を年代別にみると、30歳未満が36.6%と比較的認知が進んでいる状況にありますが、30代以上については、おおむね4分の1以下となっており、どの年代においてもさらに周知の必要があるようです。

12 市税などの納付方法について

設問⑬-1 あなたは市税や公共料金などの納付について、不便を感じますか。

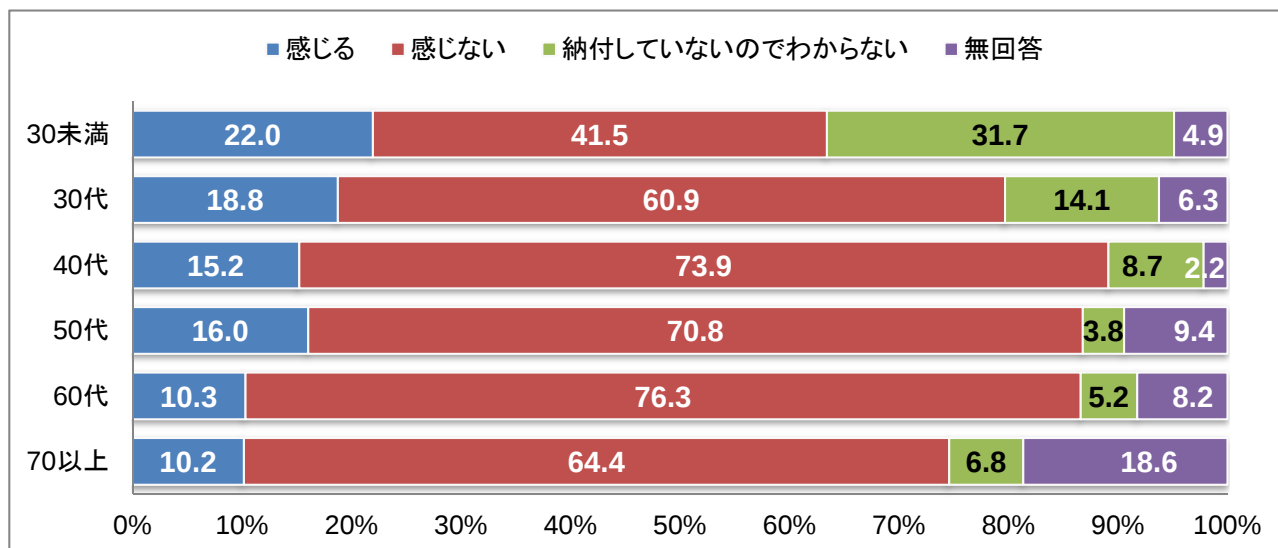
①全体／男女別

[単位：％]



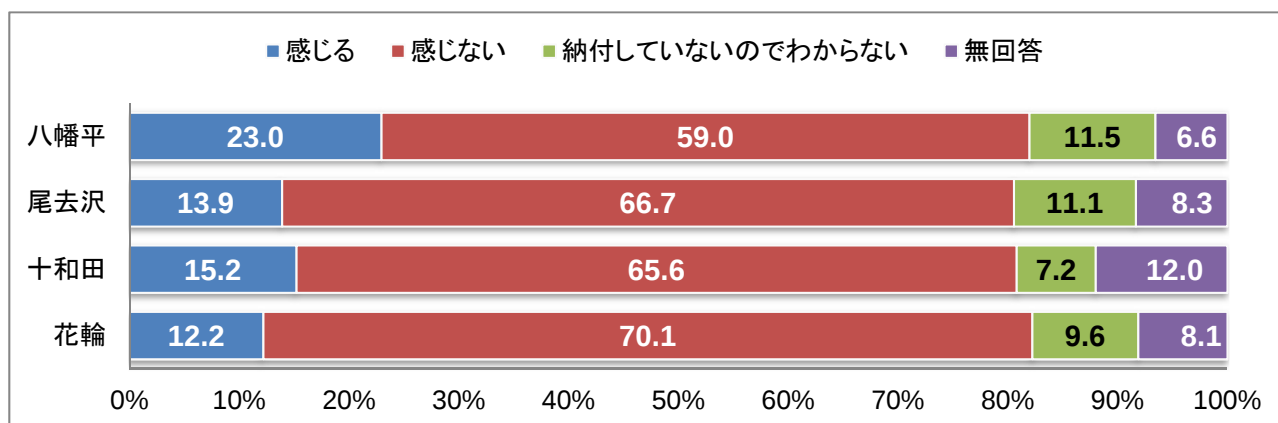
②年代別

[単位：％]

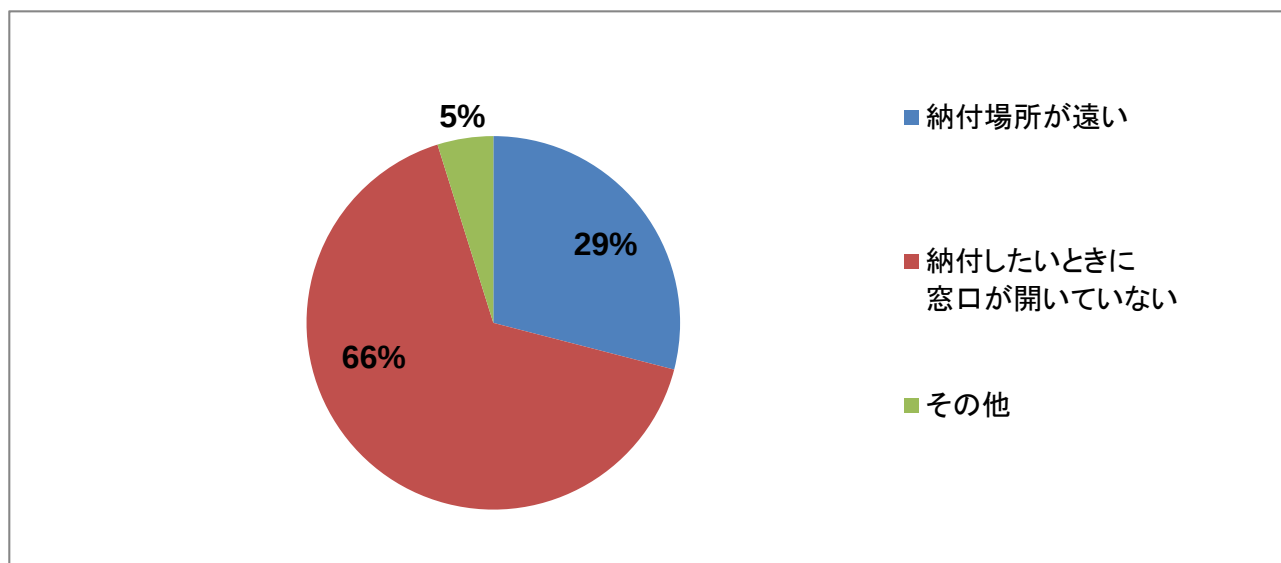


③地区別

[単位：％]



④不便を感じる理由



⑤分析結果

現在、市税などの納付は、口座振替・納付書・郵便振替で行っていますが、納付方法で不便を感じている方の割合は14.7%となり、不便を感じない方の割合は67.0%となりました。

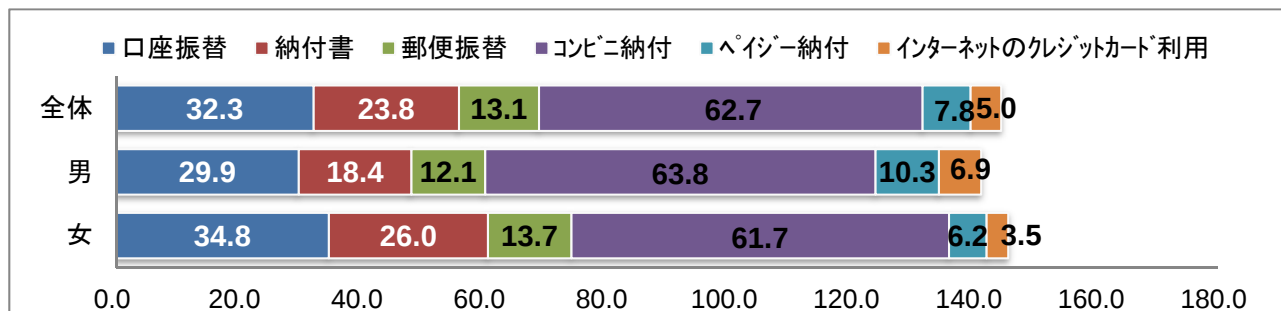
不便を感じる理由として、「納付したいときに窓口が開いていない」が66%と主な要因になっており、サービスデーでの開庁時間延長や休日対応可能な市民サービス窓口の利用について、周知が浸透していないことが推察されます。

年代別にみると、60代以上の半数以上が納付場所が遠いため不便を感じていると回答しており、納税に出向くことが困難な方への対応についても検討が必要です。

設問⑬-2 従来の納付方法に加え、次のような新たな方法も可能になったとしたら、どの方法を利用していきたいと思いますか。（複数回答可）

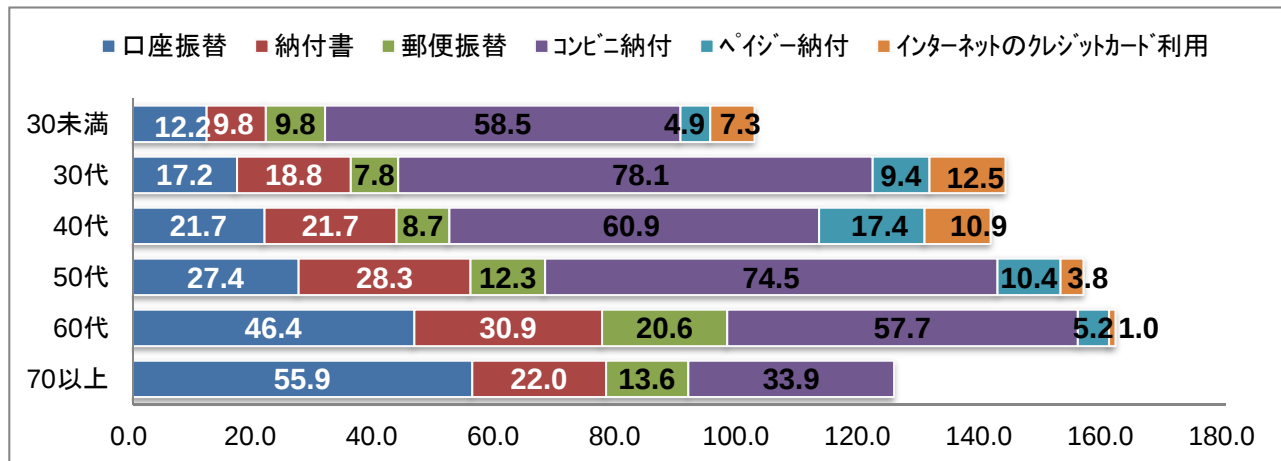
①全体／男女別

〔単位：％〕



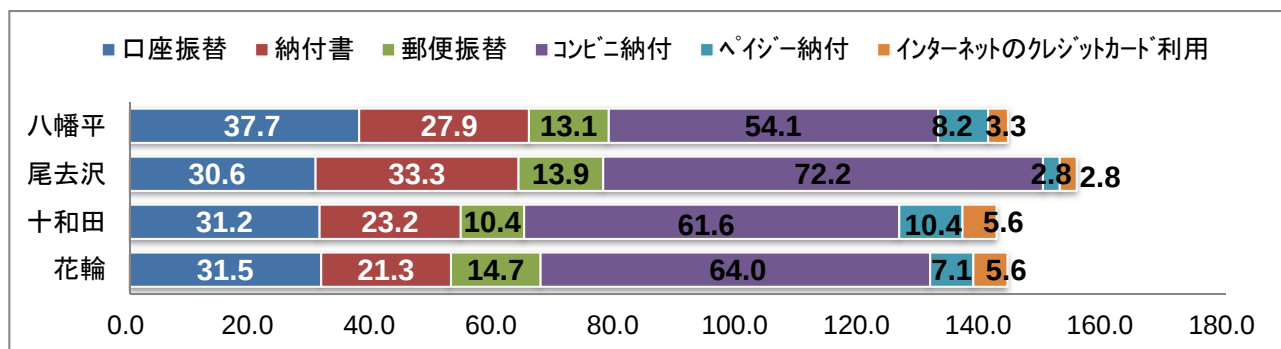
②年代別

〔単位：％〕



③地区別

〔単位：％〕



④分析結果

公共料金の納付方法について、全国的に導入事例が広がっている方法と合わせ、利用意向をうかがったところ、引き続き従来の納付方法（口座振替、納付書、郵便振替）を利用すると答えた方が全体の約7割を占めた一方、コンビニエンスストアを利用したいという意見も6割以上となりました。

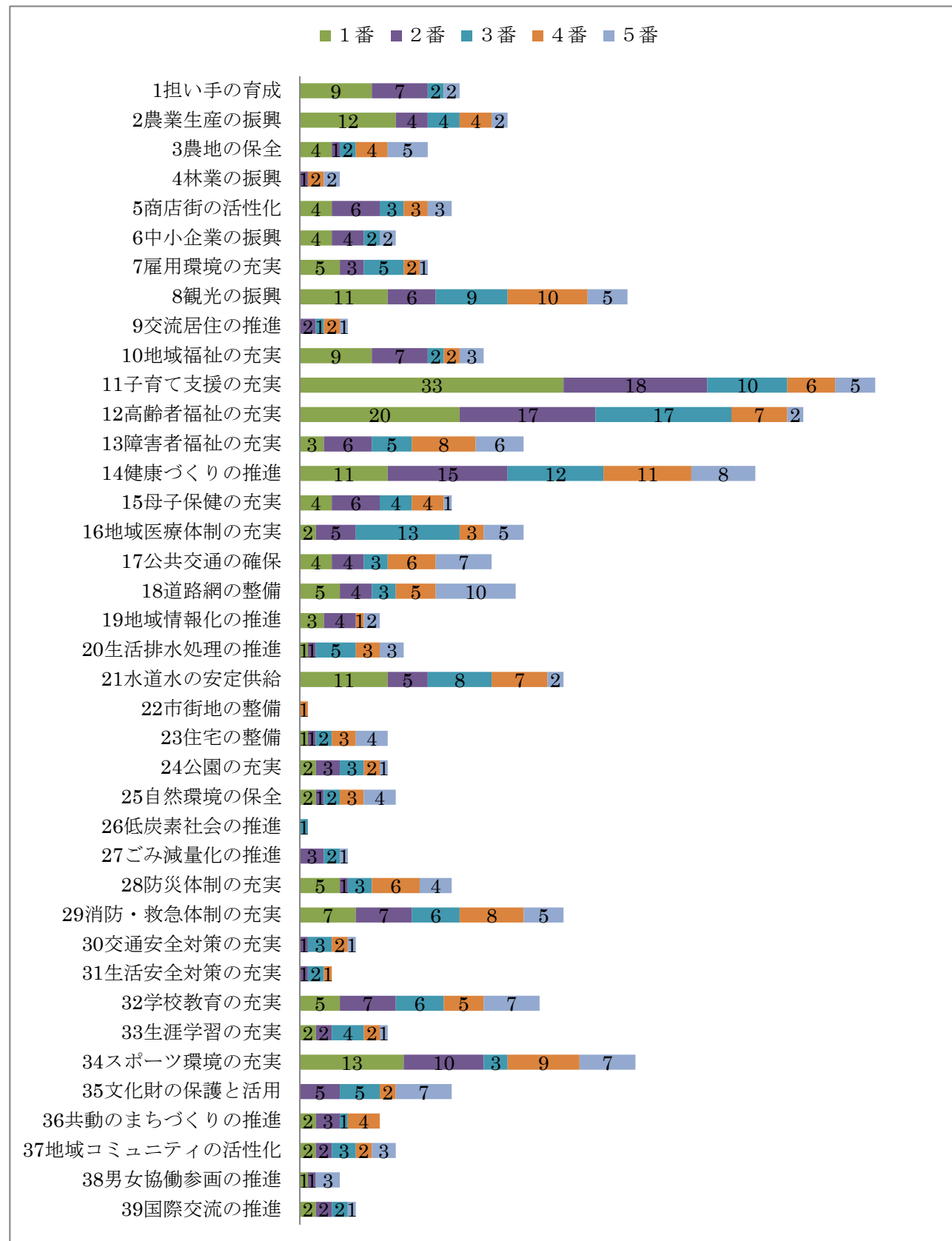
市内には複数のコンビニエンスストアがあり、深夜や早朝、休日等でも納付可能な環境を求めるニーズが高いことがうかがえます。また、ペイジー納付やインターネットを利用した納付方法も、40代を中心に利用意向があることから、様々な納付環境について検討が必要です。

13 市の施策について

設問⑭-1 市が進めている取り組みの中で、効果が得られていると感じるものを下表の39項目から順に5つ選んでください。

①全体／男女別（項目別選択割合／複数回答）

〔単位：点〕



No.	順位	施策	1番	2番	3番	4番	5番	計
11	1	子育て支援の充実	33	18	10	6	5	72
12	2	高齢者福祉の充実	20	17	17	7	2	63
14	3	健康づくりの推進	11	15	12	11	8	57
34	4	スポーツ環境の充実	13	10	3	9	7	42
8	5	観光の振興	11	6	9	10	5	41
21	6	水道水の安定供給	11	5	8	7	2	33
29	6	消防・救急体制の充実	7	7	6	8	5	33
32	8	学校教育の充実	5	7	6	5	7	30
13	9	障害者福祉の充実	3	6	5	8	6	28
16	9	地域医療体制の充実	2	5	13	3	5	28
18	11	道路網の整備	5	4	3	5	10	27
2	12	農業生産の振興	12	4	4	4	2	26
17	13	公共交通の確保	4	4	3	6	7	24
10	14	地域福祉の充実	9	7	2	2	3	23
1	15	担い手の育成	9	7	2	0	2	20
5	16	商店街の活性化	4	6	3	3	3	19
15	16	母子保健の充実	4	6	4	4	1	19
28	16	防災体制の充実	5	1	3	6	4	19
35	16	文化財の保護と活用	0	5	5	2	7	19
3	20	農地の保全	4	1	2	4	5	16
7	20	雇用環境の充実	5	3	5	2	1	16
20	22	生活排水処理の推進	1	1	5	3	3	13
6	23	中小企業の振興	4	4	2	0	2	12
25	23	自然環境の保全	2	1	2	3	4	12
37	23	地域コミュニティの活性化	2	2	3	2	3	12
23	26	住宅の整備	1	1	2	3	4	11
24	26	公園の充実	2	3	3	2	1	11
33	26	生涯学習の充実	2	2	4	2	1	11
19	29	地域情報化の推進	3	4	0	1	2	10
36	29	共働きのまちづくりの推進	2	3	1	4	0	10
30	31	交通安全対策の充実	0	1	3	2	1	7
39	31	国際交流の推進	2	2	2	0	1	7
9	33	交流居住の推進	0	2	1	2	1	6
27	33	ごみ減量化の推進	0	3	2	0	1	6
4	35	林業の振興	0	1	0	2	2	5
38	35	男女協働参画の推進	1	1	0	0	3	5
31	37	生活安全対策の充実	0	1	2	1	0	4
22	39	市街地の整備	0	0	0	1	0	1
26	39	低炭素社会の推進	0	0	1	0	0	1

②分析結果

効果が得られていると感じる施策として、最も多くの人を選択されたのは「子育て支援の充実」で 72 名の回答者が選択しています。保育園をはじめ、子育て支援センターや児童クラブなど施設環境の充実のほか、マル福や今年度からスタートした第 3 子に対する支援の拡充など、経済的支援が評価されています。

2 番目に多く選択されたのは、「高齢者福祉の充実」で 63 名の回答者が選択しています。様々なサービスを行う新施設が増えていることによって、家族の新たなサービス利用につながったことや老後への不安が少なくなったなどの意見がありました。

3 番目に多く選択されたのは「健康づくりの推進」で、自治会や地域で行う健康講座などの健康づくりに対する取り組みや、健診に対する助成制度の充実に評価がありました。

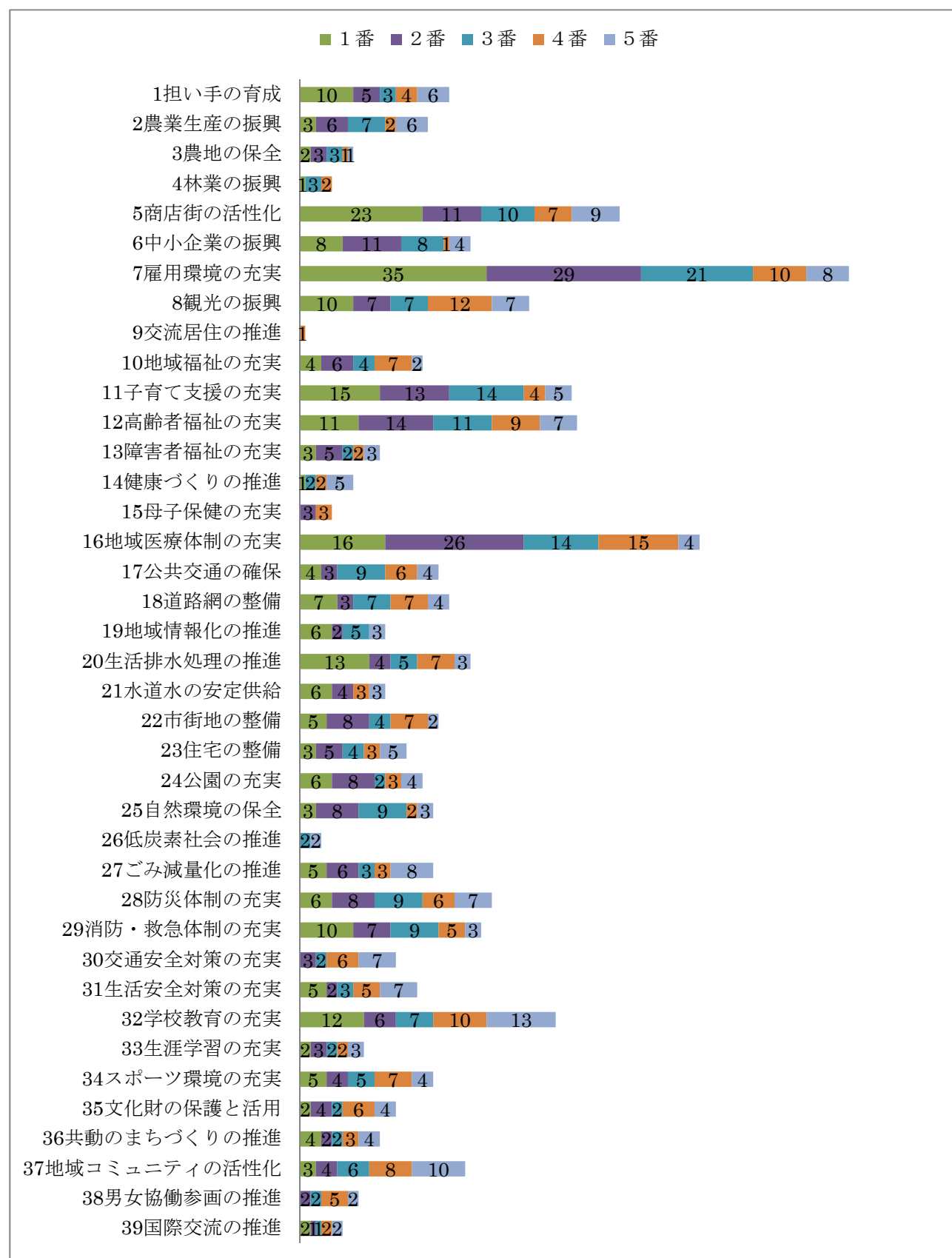
4 番目の「スポーツ環境の充実」では、スキーと駅伝の練習環境など施設整備に対する評価に加え、その施設を利用した事業や行事の充実のほか、全国規模の大会誘致が評価されています。

5 番目の「観光の振興」では、観光情報のメール配信や「鹿角いいね！」などの情報発信のほか、「でんぱく」など地域資源を活用した取り組みに対し評価を得ています。

設問⑭-2 市が進めている取り組みの中で、もっと「力」を入れて欲しいと感じるものを下表の39項目から順に**5つ**選んでください。

①全体／男女別（項目別選択割合／複数回答）

〔単位：点〕



No.	順位	施策	1番	2番	3番	4番	5番	計
7	1	雇用環境の充実	35	29	21	10	8	103
16	2	地域医療体制の充実	16	26	14	15	4	75
5	3	商店街の活性化	23	11	10	7	9	60
12	4	高齢者福祉の充実	11	14	11	9	7	52
11	5	子育て支援の充実	15	13	14	4	5	51
32	6	学校教育の充実	12	6	7	10	13	48
8	7	観光の振興	10	7	7	12	7	43
28	8	防災体制の充実	6	8	9	6	7	36
29	9	消防・救急体制の充実	10	7	9	5	3	34
6	10	中小企業の振興	8	11	8	1	4	32
20	10	生活排水処理の推進	13	4	5	7	3	32
37	12	地域コミュニティの活性化	3	4	6	8	10	31
1	13	担い手の育成	10	5	3	4	6	28
18	13	道路網の整備	7	3	7	7	4	28
17	15	公共交通の確保	4	3	9	6	4	26
22	15	市街地の整備	5	8	4	7	2	26
25	17	自然環境の保全	3	8	9	2	3	25
27	17	ごみ減量化の推進	5	6	3	3	8	25
34	17	スポーツ環境の充実	5	4	5	7	4	25
2	20	農業生産の振興	3	6	7	2	6	24
10	21	地域福祉の充実	4	6	4	7	2	23
24	21	公園の充実	6	8	2	3	4	23
31	23	生活安全対策の充実	5	2	3	5	7	22
23	24	住宅の整備	3	5	4	3	5	20
30	25	交通安全対策の充実	0	3	2	6	7	18
35	25	文化財の保護と活用	2	4	2	6	4	18
19	27	地域情報化の推進	6	2	5	0	3	16
21	27	水道水の安定供給	6	4	0	3	3	16
13	29	障害者福祉の充実	3	5	2	2	3	15
36	29	共働きのまちづくりの推進	4	2	2	3	4	15
33	31	生涯学習の充実	2	3	2	2	3	12
38	32	男女協働参画の推進	0	2	2	5	2	11
3	33	農地の保全	2	3	3	1	1	10
14	33	健康づくりの推進	1	0	2	2	5	10
39	35	国際交流の推進	2	1	1	2	2	8
4	36	林業の振興	1	0	3	2	0	6
15	36	母子保健の充実	0	3	0	3	0	6
26	38	低炭素社会の推進	0	0	2	0	2	4
9	39	交流居住の推進	0	0	0	1	0	1

②分析結果

もっと力を入れて欲しいと感じる施策として、最も多くの人に選択されたのは「雇用環境の充実」で、103名の回答者が選択しています。若者の雇用の場の確保と、賃金など雇用環境の充実を求める意見が多くありました。

2番目に多く選択されたのは「地域医療体制の充実」で、75名の回答者が選択しています。地域にない耳鼻科など専門医を望む意見のほか、夜間や休日診療の充実を求める意見がありました。

3番目に多く選択されたのは「商店街の活性化」で、60名の回答者が選択しました。設問4の「市街地の整備について」で意見が多く出されたように、商店街に魅力や活気がないことへの意見が多くありました。

4番目の「高齢者福祉の充実」では、効果が得られている施策の2番目に選ばれているものの、軽度でも支援が必要な方へのサービス拡充や、入所が必要な方に対する受け皿が足りないとする意見がありました。

5番目の「子育て支援の充実」では、最も取り組みが評価されている一方で、少子化の流れを食い止めるために更なる支援の充実を求める意見が多く、特に経済的な支援に対し要望がありました。

14 自由意見

設問⑬では自由意見として、62 名の方から意見や感想などをいただきました。

これらを施策別にとすると下表のとおりです。

いただいた意見については、庁内においてその内容をよく考察し、今後の施策推進に役立ててまいります。

施策		件数	施策		件数
1-1-1	担い手の育成	－	3-2-3	水道水の安定供給	－
1-1-2	農業生産の振興	－	3-2-4	市街地の整備	1
1-1-3	農地の保全	－	3-2-5	住宅の整備	－
1-1-4	林業の振興	－	3-2-6	公園の充実	1
1-2-1	商店街の活性化	1	3-3-1	自然環境の保全	－
1-2-2	中小企業の振興	－	3-3-2	低炭素社会の推進	－
1-2-3	雇用環境の充実	5	3-3-3	ごみ減量化の推進	3
1-3-1	観光の振興	2	3-4-1	防災体制の充実	－
1-3-2	交流居住の推進	－	3-4-2	消防・救急体制の充実	－
2-1-1	地域福祉の充実	－	3-4-3	交通安全対策の充実	－
2-1-2	子育て支援の充実	1	3-4-4	生活安全対策の充実	1
2-1-3	高齢者福祉の充実	－	4-1-1	学校教育の充実	1
2-1-4	障害者福祉の充実	－	4-2-1	生涯学習の充実	3
2-2-1	健康づくりの推進	2	4-2-2	スポーツ環境の充実	2
2-2-2	母子保健の充実	1	4-2-3	文化財の保護と活用	1
2-2-3	地域医療体制の充実	－	5-1-1	共働きのまちづくりの推進	－
3-1-1	公共交通の確保	－	5-1-2	地域コミュニティの活性化	2
3-1-2	道路網の整備	3	5-1-3	男女協働参画の推進	－
3-2-1	地域情報化の推進	－	5-1-4	国際交流の推進	－
3-2-2	生活排水処理の推進	－	その他		32
				合 計	62